行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標1 生涯を通じて学び育つまち

基本施策2 学校教育の充実と次代を担う子ども・若者の育成施策3 学校教育

基本方針

児童・生徒一人ひとりの個性と能力を最大限伸ばすとともに、「生きる力」を育み、豊かな人間性と社会性を身につけさせるため、小中一貫教育を中心とした学校教育の充実を図ります。

2 指標(長期総合計画目標指標)

	指標名		t	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	学校アンケートの「小中一貫 教育に関する項目」に対する 肯定的評価の割合	1		60%	72%	84%	83%	84%	80%
指標2	中学校における不登校生徒出 現率	3.07%	(平成22 年度)	4.12%	2.85%	3.16%	3.81%	3.83%	2%
指標3	中学校区ごとの学校支援地域 本部(仮称)の設置数	0校区	(平成22 年度)	1校区	3校区	3校区	3校区	3校区	3校区

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

	<u>ження / Ф 1925 — 192 — 19</u>	平成2	28年度実施	結果		指標に係る			
No	事業名	決算/円	予算執行 率	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	方向性	重点事務事業
1	小中一貫教育の推進	10,686,010	99.5%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	*
2	多様なニーズに応じた特別支援 体制(インクルーシブ教育システム)の構築	3,839,235	85.8%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	*
3	特色ある学校づくりの推進	8,605,070	86.1%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	
4	学習サポーターの充実	11,367,000	100.0%	計画どおり 完了	0	0	0	A	
5	特別支援教育支援員の充実	12,159,910	87.8%	計画どおり 完了	0	0	0	A	*
6	特別支援教室の設置	561,053	62.8%	計画どおり 完了	0	0	0	A	*
7	職層研修等の実施	20,000	66.7%	計画どおり 完了	0	0	0	A	
8	スクールソーシャルワーカーの 充実	1,535,408	72.4%	計画どおり 完了	0	0	0	A	*
9	教育相談員による巡回相談の 充実	16,462,970	96.7%	計画どおり 完了	0	0	0	A	*
10	中学校不登校等対応指導員の 配置	-	_	計画どおり 完了	0	0	0	Α	*
11	教育用コンピューターの更新	35,445,060	100.0%	計画を見直 し完了	0	0	0	Α	
12	学校図書館総合管理システム の拡大	3,884,328	87.8%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	
13	学校図書館司書の充実	5,917,386	99.0%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	

14	学校支援地域本部の運営	816,000	100.0%	計画どおり 完了	0	0	0	А	*
15	小中学校部活動の充実	12,849,463	80.4%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	
16	幼稚園・保育園・小学校連携推 進懇談会の運営	5,000	33.3%	計画を見直 し完了	0	0	0	А	*
17	学校教育施設の計画的な改修	661,217,040	97.2%	計画どおり 完了	0	0	0	А	

4 施策評価

①施策の評価

小中一貫教育を柱とした教育の充実については、全中学校区で着実に実施されており、児童・生徒の交流、小中教員の相互連携は回数・頻度を重ね深度が増し、小中一貫教育に関する項目に対する肯定的評価も安定している。教員への支援、児童・生徒に関わる学習環境・支援環境も継続し行っている。

中学校における不登校生徒については、基本計画を策定した平成24年当時に比べて、こどもを取り巻く環境の複雑化など社会環境の変化により全国的に増加傾向にあり、当初目標(出現率2%)は達成されていないが、不登校対応指導員を配置し学校復帰への支援を行ってきた。

多様なニーズに対応した教育の推進については、特別支援教育における支援員の配置により、市内小学校の通常の学級に在籍する児童で発達障害等があり、特別な支援が必要な児童に対し、効果的な指導を提供することができた。また、平成28年4月から全小学校7校において「特別支援教室」事業が本格実施され、在籍校における発達障害及びその傾向のある児童の支援体制の整備と指導の充実を図った。社会福祉士等の資格を持ったスクールソーシャルワーカーを、校区に分けた(一中校区・二、三中校区)配置を行い、小・中学校からの積極的な要望に応じて課題のある児童・生徒の情報を学校と共有し、保護者や児童と面接を行うと伴に、学校内外の関係機関との連絡調整を図り児童・生徒の生活環境の改善に努めた。東京都のスクールカウンセラー事業の活用や教育相談室の相談員を全小学校に週1回、全中学校に月1回配置し、学校という身近なところでの相談場所を確保した。これらの取組みを通じて一人ひとりに応じた支援体制の整備を図ってきた。

教育環境の整備の面では、教育用コンピューターの更新や学校図書館総合管理システムの導入校の拡大といったハード面の整備に加え、家庭・地域と連携協力した学校支援の仕組みとしての学校地域本部の全中学校区での設置や学校 支援地域本部コーディネーターの配置などソフト面での整備を進めることができた。

②今後の方向性(改善への取組み等)

引続き、小中一貫教育を柱とした教育、学校支援地域本部の運営を推進していく。

不登校生徒の対応については、その背景・原因を生徒や家庭の問題として放置することなく、その解消に取り組んでいく必要があることから、スクールカウンセラーや教育相談員等の心理士やスクールソーシャルワーカーなど、専門性の高い人材を積極的に活用し、情報を共有することにより未然防止・早期対応に取り組んで行く。

発達障害等のある児童・生徒については、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応え、成長を支援していくため、教員の専門性の向上を図る研修を充実させるとともに、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童・生徒への支援を充実するために、教員の資格を有する特別支援教育支援員を配置し、児童・生徒のきめ細やかな支援を継続していく。また、子どもと保護者の多様なニーズを受け止めた共生社会の形成(インクルーシブ教育システム)を実現のためのシステム構築について、学校におけるよりニーズに応じた支援体制の構築を図るため、各学校に配置されている特別支援教育コーディネーターを中心に、各学校に応じた研修体制を構築(専門家による学校巡回等)していく必要がある。

平成28年度 【基本シート】	- /L - 6			··· 4-			··
1.基本項目		部署		学習部	一年		学校教育課
事業名			実施期間	事業種別 自治事務(市	運営	<u>于</u> 法	進行管理
<mark>1</mark> 小中一貫教育の推進	平成	21 年	継続	日石事務(巾 独自)	直営		
01		年		J		İ	
02		年					
03	·	年				- 	
04		年					
05		年					
関連課	<u> </u>						
		区分	3 学	!校教育	事業	番号	1
2.事業の概要	0 17 5 7 70213	//			J- //-	m ,	•
<u>Z.尹未の恢安</u> 事 各中学校区の特色を生かし	た小山―貫教育	宝施計	画に其づき	0年間の継	続した	 数	動を行い
業はます。	八二八八 天水口		四に歩って	、♥ŢPJ♥╱⋪Ŀ	1960,-	秋口,口	到C v
内 容							
登 根拠法令							
条例							
要綱等 小中一貫教育実施	· 西計画						
3.成果指標							
	固性や能力を伸に	ずし、 豊	かな人間性	生や社会性を	r 育て	る。	
果 目							
 							
4.活動指標							
4.活動指標	(現況)	• 		3か年計画		L	-
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	平成	艾28年度	平	3か年計画 ² 成29年度		平成3	80年度
4.活動指標	平成	〔28年度			同左	平成3	30年度
4.活動指標 Plan【計画】 平成27年度 ^{小中一貫教育の} 学校区	実施全中同左	〔28年度	同左				80年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左	〔28年度	平		同左		30年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 - ター、英語 同左、外国語活	〔28年度	同左				30年度
4.活動指標 Plan【計画】 平成27年度 小中一貫教育の学校区 事業内容 学習コーディネーター、コーディネーター、コーディネーター、コーディネーター、コーディネーター、コーディネーター、	実施 全中 同左 - ター、英語 同左、外国語活	〔28年度	同左				80年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 -ター、英語 同左 、外国語活)配置		同左	成29年度			30年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施全中同左 ・ター、英語同左、外国語活 ・外国語活 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	投入する	同左同左	成29年度			80年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施全中同左 ・ター、英語同左、外国語活 ・外国語活 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	投入する りの年間 平成	国左 同左 同左 同左 「同左 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本	成29年度	同左		30年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 -ター、英語 同左 、外国語活 D 配置 -	投入する りの年間 平成	国左 同左 同左 る資源【ヒト・ 引業務時間】	成29年度 モノ・カネ】)	同左		
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 の	投入する りの年間 平成	同左 同左 同左 同左 3資源【ヒト・ 間業務時間】 28年度 概算時間 160 H	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算	度 時間 60 H	平成人数 1 人	t30年度 概算時間 160 H
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 の	投入する りの年間 平成 人数	同左 同左 同左 影楽 記業務時間 で で で で で で で に に に に に に に に に に に に	で で で で 大数 大数 大数 大数 大数 大数 大数 大数 大数 大数	度	平成人数	(30年度 概算時間
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度 ホーー	実施 全中 同左 の	投入する りの年間 平成 人数 1人 0人	同左 同左 同左 同左 間業務時間 28年度 概算時間 160 H 0 H	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1 人 1	度 時間 60 H 0 H	平成 人数 1人 0人	t30年度 概算時間 160 H 0 H
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度 ・ 中一貫教育の・ 学校区 事業内容 事業量等 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実施 全中 同左 同左 の	投入する りの年間 人数 人 1 人 0 人	同左 同左 同左 る資源【ヒト・ 調業務時間】 28年度 概算時間 160 H 0 H	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人	度 時間 60 H 60 H	平成 人数 1人 0人	就30年度 概算時間 160 H 0 H 30年度
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度 小中一貫教育の 学校区 事業内容 事業量等	実施 全中 同左 同左 の	投入する りの年間 人数 人 1 人 0 人	同左 同左 同左 影響 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 題 日 日 日 日 日 日 日	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人	度 時間 60 H 0 H 8,194	平成 人数 1人 0人	就30年度 概算時間 160 H 0 H 就30年度 8,194
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左	投入する りの年間 人数 1人 0人	同左 同左 同左 同左 1 3資源【ヒト・ 引業務時間】 160 H 0 H 28年度 8,194 796	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1 人 1 0 0 人	度 時間 60 H 0 H 度 8,194 796	平成 人数 1人 0人	t30年度 概算時間 160 H 0 H t30年度 8,194 796
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度 事業内容 事業量等	実施全中 同左	投入する りの年間 人数 1人 0人 平成	同左 同左 同左 同左 1 3資源【ヒト・ 引業務時間】 160 H 0 H 28年度 8,194 796 0	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人 平成29年	度 時間 60 H 0 H 8,194 796 0	平成 人数 1人 0人	t30年度 概算時間 160 H 0 H t30年度 8,194 796 0
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左	投入する りの年間 人数 入 1 0 0 平成	同左 同左 同左 同左 1 3資源【ヒト・ 引業務時間】 160 H 0 H 28年度 8,194 796	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人 平成29年	度 時間 60 H 0 H 度 8,194 796	平成 人数 1人 0人	₹30年度 概算時間 160 H 0 H ₹30年度 8,194 796 0 8,990
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左	投入する りの年間 人数 入 1 0 0 平成	同左 同左 同左 同左 間業務時間 28年度 概算時間 160 H 0 H 28年度 8,194 796 0 8,990	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人 平成29年	度 時間 60 H 0 H 8,194 796 0 8,990	平成 人数 1人 0人	成30年度 概算時間 160 H 0 H 0 H 796 796 0 8,990
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 同左 の	投入する りの年間 人数 入 1 0 0 平成	同左 同左 同左 同左 る資源【ヒト・ 引業務時間】 160 H 0 H 28年度 8,194 796 0 8,990	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人 平成29年	度 時間 60 H 0 H 8,194 796 0 8,990 0	平成 人数 1人 0人	t30年度 概算時間 160 H 0 H
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度 事業内容 事業量等	実施 全中 同左 同左 の	投入する りの年間 人数 入 1 0 0 平成	同左 同左 同左 同左 同左 160 H 0 H 228年度 概算時間 160 H 0 H 228年度 8,194 796 0 8,990 0 200	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人 平成29年	度 時間 60 H 0 H 8,194 796 0 8,990 0 200	平成 人数 1人 0人	就30年度 概算時間 160 H 0 H 30年度 8,194 796 0 8,990 0 200
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度	実施 全中 同左 同左 の	投入する りの年間 人数 入 1 0 0 平成	同左 同左 同左 同左 間業務時間 28年度 概算時間 160 H 0 H 28年度 8,194 796 0 8,990 0 200 0	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1人 10 0人 平成29年	度 時間 60 H 0 H 8,194 796 0 0 8,990 0 200 0	平成 人数 1人 0人	t30年度 概算時間 160 H 0 H t30年度 8,194 796 0 8,990 0 200 0
4.活動指標 Plan(計画) 平成27年度 事業内容事業量等 コーディネーの 学校区 学習コーディネーの サヤグ区 サマディネーの サイブ (成果の達成、及び (1)人件費 【事務執行に要する 職層・職種別 係長職 主手任職 (2)総事業費 事業費 人件費(係長職)人件費(系長職)人件費(系長職)人件費(京任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源	実施 全中 同左	投入する りの年間 人数 1 0 0 平成	同左 同左 同左 同左 3資源【ヒト・ 引業務時間 160 H 0 H 28年度 8,194 796 0 8,990 0 200 0	モノ・カネ】) 平成29年 人数 概算! 1 人	度 時間 60 H 0 H 796 0 8,194 796 0 8,990 0 200 0	平成 人数 1人 0人	t30年度 概算時間 160 H 0 H t30年度 8,194 796 0 8,990 0 200 0

財源内訳(合計) ③コスト計算

56,281 人における1人あたりのコストは、 4448 人における1人あたりのコストは、 の 出来高 ア市民イ対象者ウ成果物

8,863

160 円 2,021 円 のコストは

8,990

8,990

一円

8,990

※ 対象者: 小中学校の児童・生徒

Do(実行) 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、 ☑計画どおり完了 □計画を ①活動実績(Plan【計画】及び事	と見直し完了(ジ	欠年度以降計画を	見直す)		□ 中断 施 (<i>た</i> か)
※計画を見直し完了、遅延、中羽村市独自の特色ある教育内の指導体制の充実のため、外ター6人を配置した。	中断となった場合 P <mark>容である「英語</mark>	合は、理由、内容な 吾教育」、「羽村学(<u>:どを記入するこ</u> 郷土学習)」、「ノ	<u>と。</u> 人間学(キ	ャリア教育)」
決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)		予算額(最終)	決算客	
事業費 7.成果結果	8,194,000	2,550,000	10,744,000	10,08	6,010 99.5%
①活動、投入実績から生じたり	<u> </u>				
前年度(今までの状	況)		度(どういう状態		
引続き、小中一貫教育実施計年間の教育活動の充実を図る		小中一貫教育実施 実を図るため、着			
独自の特色ある教育内容に取	以り組んだ。	した。 また、はむらの教 発信した。	育を活用し小中		
②4.活動指標のPlan【計画】に	おいて、目標値	直を数値化している		1 - 4	• - +
対象者(物)		本年度:目標(直	本年	度:実績値
			⇒		
Check【評価】 8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発		◎・・・適切である。○・・・適切なもの△・・・課題があり、	、今後、改善が』	必要なもの	
	価のポイント	" - " 本 . 古 米 . .	項目の着	眼点	課長評価
妥 û ·上位施策(基本目標・施 当 要 ·今の社会情勢に見合う 性 ·利用者・対象者のニー	事業内容となっ ズ(需要)はある	っているか	施策体系に結び 事業の必要性		\cap
効					
性 🕽	牛費・事業費の			務が執	0
性 🕽			成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか	務が執い	0
性 🕽			成果を落とさず 経費・労力で事	務が執い	0
性 () 有 () ・事業の目標が達成され	にているか		成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか 成果又は効果:	務が執い	0
性 () 有 (・事業の目標が達成され 効 果 性 ()	これるか (でいるか)		成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか 成果又は効果:	務が執い	今後の方向性
性 () 事業の目標が達成され 効果 性 () ②事業評価(今後の方向性に 【今後の方向性】	aているか ついての視点) 高〔妥≦ ↑ A:計画どおりに より効果的に よ実施主体の見	削減余地はないか 当性・有効性〕 二事業を進めること こ改善して進めるこ。 見直しの検討	成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか 成果又は効果 いるか 、又は、 とが適当	務が執い	今後の
性(*) 有(成)	aているか ついての視点) 高 [妥計 ↑ A:計画どおりに より効果的に は実施主体の身 し、休止・廃止 ↓ 低	削減余地はないか 当性・有効性〕 二事業を進めること こ改善して進めるこ。 見直しの検討	成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか 成果又は効果 いるか 、又は、 とが適当	· が表れて	今後の
性 ()	aているか ついての視点) 高 〔妥論 ↑ A:計画どおりに より効果的に は実施主体のり し、休止・廃止 ↓ 低	削減余地はないか 当性・有効性〕 二事業を進めること 改善して進めるこ。 見直しの検討 の検討	成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか 成果又は効果: 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	· が表れて	今後の

平成28年度 【表	基本シート】					
1.基本項目	_ , , , , <u>,</u>	作成部署		手習 部		教育支援課
	事業名	開始年度	実施期間		運営手法	進行管理
2 多様なニーズに応	なじた特別支援体制(インク	平成 26 年	継続	自治事務(市	直営	
01	(ナム)の情栄	年		独自)		
02						
04		年				
05	*************************************	年 2 本名		T +++ 33 44 75 =0		1
<u> </u>	教育課・障害福祉課・値	Ī				1
┃基本目標 1 生	涯を通じて学び育つま	ち 施策区分	3 学	2校教育	事業番号	19
2.事業の概要						
事 IES(インクルー	-シブ教育システム)コ	ーディネーター	を配置し、教	人員、特別支	援教育支援的	員、巡回教
業 育相談員等の	専門性向上による校内	内体制の整備及	なが市の支援	後体制の充実	そを図ります。	また、発達
	し、幼稚園・保育園、中	学校への園児	や生徒の行	「虭観祭及ひ	・就字等に係る	る相談を行
容います。						
根拠法令						
条例 要綱等						
1 <u>多啊哥</u> 3.成果指標						
計学並から計	労に至るまで、多様	なニーズを受	ナルめた共々	生社会の形	式に向けた特	特別支援教
ПУ 1	(インクルーシブ教				301-1-1-7-7-1	
	•					
標						
4.活動指標						
Plan【計画】	平成27年度(現況)			3か年計画		
		平成28年月		7成29年度		30年度
	インクルーシブ教育システ ムコーディネーターの配置、	司左 年84日	同左右		同左 年84日	l
	支援体制の運営 年84日					
	 発達相談員による幼稚園・	司左	同左		同左	
事業内容	保育園、中学校への園児や	H) 4L	le) Z		le) &	
事業量等	生徒の行動観察及び就学 等に係る相談					
	「はばたきファイル」の配 布・活用	司左	同左		同左	
	ת מַּע יווי					
5.投入指標(成果	の達成、及び活動する	ために投入す	る資源【ヒト・	・モノ・カネ】)	-	

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

UNITED TO THE PROPERTY OF THE									
職層•職種別	平成27年度(現況)		平月	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
哦眉 哦性力	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	
係長職	1人	40 H	1人	40 H	1人	40 H	1人	40 H	
主事·主任職	1人	40 H	1人	40 H	1人	40 H	1人	40 H	

②総事業費

<u>心</u> 秘尹未其				
事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	6,450	6,666	6,666	6,666
人件費(係長職)	202	199	199	199
人件費(主任・主事職)	144	136	136	136
総事業費(合計)	6,796	7,001	7,001	7,001
国庫支出金	3,391	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	3,405	7,001	7,001	7,001
財源内訳(合計)	6,796	7,001	7,001	7,001

(3) .	コマ	L≣-	- 笛	

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、
ウ 成果物		の出来高
※ 対象者:		

124	円
	円
のコストは	H

①活動実績(Plan【計画】及び ※計画を見直し完了、遅延、「	を見直し完了(2 事中評価におけ 中断となった場	欠年度以降計画を ける改善について 合は、理由、内容	見直す 本年度。 などを言	どのような 己入するこ	ع- ً	
インクルーシブ教育システムコ他、関係機関等の教育資源を相談員による幼稚園、保育園	効果的に組み	合わせ、活用する	システ	ムの構築		
②投入実績 決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)		文	5(早级)	油 質如	酒 劫 行家
事業費	了异敌(ヨ初) 6,666,000	補正・流用額 ▲ 2,189,000		<u>〔最終〕</u> 1,477,000	決算額	額 執行率 8 <mark>9,235</mark> 85.8%
	0,000,000	2 ,103,000		1,477,000	0,00	00.070
①活動、投入実績から生じた	戓果(物)					
前年度(今までの状					になったか	
インクルーシブ教育システムコ		インクルーシブ教				
ターを配置し、特別支援学級、		別支援学級、特別の教育を対				
室、教育相談室他、関係機関 を効果的に組み合わせ、活用	守の叙目貝派	の教育資源を効構築の支援を実				
築のための支援を実施した。		園、中学校への記				
よる幼稚園、保育園、中学校		学相談の件数は				Δ-1 - TA
相談を実施した。なお、就学・		7 14 150 11 550 10	- DW-IX		O	
数は増加傾向である。						
②4.活動指標のPlan【計画】に	おいて、目標値					
対象者(物)		本年度:目標	! 値		本年	度:実績値
				→		
Check【評価】		◎・・・適切である		後、より欬	り果的に改	善するもの
8.評価	♥ E1 → T → T → E \	〇・・・適切なもの		¬L ¥ 18	ν π 4 >4 ο	
①事業評価(改善等、課題を多 「項目 評・	<u>È兄する倪点)</u> 価のポイント	△・・・課題があり		、改善かり 項目の着		課長評価
		カル必亜が車業も		リロ の 酒	に	林文計៕
妥 û ・上位施策(基本目標・施 当 要 ・今の社会情勢に見合う			一.他來1	本系に結		
性 ・利用者・対象者の二一			事業の	の必要性	はあるか	
			、成果?	を落とさす	、最少の	_
効 ()・活動手法を見直し、人()率 法	130 1210	1,1,1,1,1,1,1		労力で事		
効 () 活動手法を見直し、人(率 法 性)				こているか		
古 〜 ・ 車 类 の 日 堙 が 法 ぱ ナ ↓	にいるか		成用.	口什热用	が表れて	
効 🖫			一いるだ		N'4X10 C	
<u> 性 ~ </u>			0 ~0%	, -		
②事業評価(今後の方向性に		17 14 1 1 1 14 5				^ // 0
【今後の方向性】	局【安 ↑	当性•有効性〕				今後の 方向性
B:事業の進め方の	 	事業を進めること	- ∇ 1±			73 1-3 1-2
低。改善の検討		こ改善して進めるこ				
← C:事業規模·内容又					加率性〕	Λ
D:事業の抜本的見直						H
	↓ <u> </u>					
	低					

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

インクルーシブ教育システムコーディネーターを配置し、子どもと保護者の多様なニーズを受け止めた 共生社会の形成(インクルーシブ教育システム)を実現のためのシステムを構築してきた。今後は、学 校における、より多様なニーズに応じた支援体制の構築を図るため、各学校に配置されている特別支 援教育コーディネーターを中心に、各学校に応じた研修体制を構築(専門家による学校巡回指導等)し ていく必要がある。

亚芹00左连 【1	+ + > 1 1										
	基本シート】		<i>U</i> ∈ =1:	部署	<u> </u>	<i>H</i> - 3F	F 쓰 되되	立 7		-	当抗势安部
1.基本項目	古光夕				中佐		学習		軍巴		学校教育課
	事業名			年度	実施	捌旧	事業相自治事		建呂	手法	進行管理
3 特色ある学校づく	りの推進		平成	16 年	継続		独自)	נון / בנו	直営		
01				丘			'ДП'				
02				——年 ——年							
03				车							
04				车							
05				年							
関連課											
基本目標 1 生	涯を通じて学	ひ育つま	まち 施策	区分	3	学	校教育	Ī	事業	番号	2
2.事業の概要											
	交付金を交	付し、特化	色ある学科	立づくし	を展開	しまる	 				
業	~\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	110(11)	ונשכטם.	~ - \ /	- L 12(1)	,00,	, 0				
内											
容											
根拠法令											
条例			→ W LL *	711 -		, , , , , ,					
	市立小中学	交特色あ	る字校つ	くり交任	寸金交	付要約	尚				
3.成果指標											
		者のニ−	-ズに対応	ふした	教育活	動を打	推進し	、児童	・生	徒の学	!力向上と
果健全育成を図	る。										
標											
4.活動指標											
Plan【計画】	平成27年度	王(王)					3か年記				
				28年原			ヹ成29年	F度			30年度
	各学校の実施計		同左			同左			同方	Ē	
	支援 全小中学 ・小中一貫教育										
	特色ある教育の										
事業内容	・多様なニーズ	に応じた教									
事業量等	育の推進	<u> </u>									
	・健やかな成長を育環境の整備	を文える教									
	月現境の霊順										
5.投入指標(成果]ネ】)			
①人件費 【事務	務執行に要す										
			度(現況)		成28年			戈29年			战30年度
	主かり	人数	既算時間	人数	概算		人数	概算		人数	概算時間
係長職		1人	160 H	1人	1	60 H	1人	1	60 H	1人	160 H
主事·主任職		0 人	0 H	0 人		0 H	0 人		0 H	0 人	0 H
②総事業費											
事業費の内訳(単位:千円)	平成27年	度(現況)	平月	成28年	度	平凡	戈29年	度	平凡	划30年度
事業費			10,000		1	0,000		1	0,000		10,000
人件費(係長期	哉)		807			796			796		796
人件費(主任・	主事職)		0			0			0		0
総事業費(合計)			10,807		1	0,796		1	0,796		10,796
国庫支出金			0			0		-	0		0
都支出金			0			0			0		0
受益者負担額			0			0			0		0
その他特定財			10,000		1	0,000			0		0
一般会計繰入			0,000			0,000			0		0
起債	, <u>अर</u>					0			0		0
	# 弗会まい		0					4	_		
一般財源(人作	十貝召む)		807			796			0,796		10,796
財源内訳(合計)			10,807		1	0,796		1	0,796		10,796
③コスト計算	56,281 人					_					
ア市民		ィー・ハノユーフ	1	1077	7 L /十	II.		1	92 円		

 ウ 成果物
 の 出来高

 ※ 対象者: 小中学校の児童・生徒

イ 対象者

4448 人における<u>1人あ</u>たりのコストは、

2,427 円

のコストは

Do【美行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、 ☑計画どおり完了 □計画 ①活動実績(Plan【計画】及び	を見直し完了(2 事中評価におけ	欠年度以降計画を ける改善について	を見直す) <u></u> 本年度どのような		□ 中断 施したか)
※計画を見直し完了、遅延、 市内小・中学校が主体的に子 くり交付金」制度を活用し、各	どもや地域の特	寺性を踏まえた教	育活動を展開す		色ある学校づ
②投入実績			7 M 47 / P //1	> 	 1
決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正•流用額	予算額(最終)	決算額	
事業費 7.成果結果	10,000,000		10,000,000	8,00	5,070 86.1%
①活動、投入実績から生じた	成里(物)				
前年度(今までのも		今年	丰度(どういう状態	になったカ	١)
引続き、前年度の取組みを土徒や地域の実態を踏まえた教開された。	対育活動が展	や地域の実態を	を土台に、さらな 踏まえた教育活動		
②4.活動指標のPlan【計画】に	こおいて、目標値				
対象者(物)		本年度:目標	<u>票値</u> ⇒	本年』	度∶実績値
Check【評価】 8.評価 ①事業評価(改善等、課題を	発見する視点)	○・・・適切なもσ	るが、今後、より効) J、今後、改善が』		善するもの
	価のポイント		項目の着		課長評価
妥 (a)・上位施策(基本目標・所)当 要・今の社会情勢に見合性 (*)・利用者・対象者のニー	う事業内容となっ -ズ(需要)はある	っているか るか	→事業の必要性	はあるか	0
効 (・活動手法を見直し、人 率 法 性)		削減余地はないな	か 成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか	務が執	0
有 (<mark>・事業の目標が達成され</mark> 効 果 性)			─ 成果又は効果: ─ いるか	が表れて	0
②事業評価(今後の方向性に		17 hd. + + 1 1 1 2		1	
【今後の方向性】 	局【妥員	当性•有効性〕			今後の 方向性
B:事業の進め方の 低 改善の検討 ← C:事業規模・内容又 D:事業の抜本的見面	より効果的に は実施主体の身		ことが適当 高	加率性〕	Α
Action【改善】 評価から導かれる今後の課題	<u> 運と方向性</u>				
評価(所管課長)	Stn (TD.				
児童・生徒や地域の実態及び 	「喫緊の教育課	題等を踏まえた旅	施策を各校が展開	していく。	

平成28年度 【基本シート】					
1.基本項目	作成部署		学習 部		学校教育課
事業名	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4 学習サポーターの充実	平成 17 年	継続	自治事務(市 独自)	直営	
01	年				
02	年				
03	年				
04	年				
05	年				
関連課					

2.事業の概要

事 学習サポーターの配置により、小中学校における児童の学校生活習慣の指導及び学習指導等の支 業 援を充実します。

3

学校教育

事業番号

3

容容

根拠法令 条例

|要綱等 | 羽村市立小学校学習サポーター設置要綱

基本目標 1 生涯を通じて学び育つまち 施策区分

3.成果指標

成 各教科において設定した評価規準を達成できる授業を日常的に展開できるようにするととも 果 に、国及び東京都が実施する学力調査において、すべての教科において設定された正答率及 び平均正答率を上回る結果をめざす。

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)		3か年計画	
	十八八十尺(坑儿)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容	小学校7校での生活習慣指 導及び学習指導の支援 1日4時間、週5日、各小学 校1人配置	同左		小中学校10校での生活習慣 指導及び学習指導の支援 1日6時間、週5日、各小中学 校1人配置
事業量等	学力ステップアップ推進地域指定事業 算数・数学学習サポーターの配置	同左	同左	

5投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層•職種別	平成27年度(現況)		平月	成28年度	平月	成29年度	平成30年度		
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	
係長職	1人	160 H	1人	160 H	1人	160 H	1人	160 H	
主事·主任職	0人	0 H	0人	0 H	0 人	0 H	0 人	0 H	

②総事業費

<u> </u>	秘尹未其				
事	業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	事業費	13,293	11,367	11,367	13,260
	人件費(係長職)	807	796	796	796
	人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総	事業費(合計)	14,100	12,163	12,163	14,056
	国庫支出金	0	0	0	0
	都支出金	7,140	5,096	5,096	0
	受益者負担額	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	一般会計繰入金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	一般財源(人件費含む)	6,960	7,067	7,067	14,056
財	源内訳(合計)	14,100	12,163	12,163	14,056

③コスト計算

 ア市民
 56,281
 人における1人あたりのコストは、

 イ対象者
 4448
 人における1人あたりのコストは、

 ウは思想
 0 出来意

216円 2,734円 のコストは

旧

ウ成果物 の 出来高

※ 対象者: 小中学校の児童・生徒

Do【実行】 【進行管理】	4 江新七冊し	これる比価の名	± == \			
<u>6.実施結果(本</u> 年度における、 ☑計画どおり完了 □ 計画を	4.活動拍標と、 を目前1 完了()	、5.技人担保の前 か在度以降計画:	□未ノ を目直す	.) 🗖	遅延	中断
<u>□</u>						
※計画を見直し完了、遅延、「						
各小学校に学習サポーターを	配置し、授業改	文善推進プランに				が在籍する学
級担任教諭等に対する助言並	なびに支援を行	った。				
②投入実績				. =		
決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正•流用額	予算額		決算額	
事業費 7.成果結果	11,367,000			,367,000	11,30	7,000 100.0%
ハスネーネ ①活動、投入実績から生じた!	成果(物)					
前年度(今までの状		今	年度(どう	いう状態	になったか	١)
平成27年度「『学力向上を図		平成28年度「『	• •			『都平均』にお
査』都平均」においては、中学		いては、小・中等	学校ともに	こ下回った	5 0	
数、理、英)では達成できたが	、小字校(国、					
社、算、理)は下回った。						
②4.活動指標のPlan【計画】に 対象者(物)	おいて、目標値	<u>■を数値化してい</u> ┃ 本年度:目れ		ľ	十 左 [年. 宇 建店
対象者(物)		本平長:日1	宗但		本年)	度∶実績値
				⇒		
Check【評価】		◎・・・適切であ		後、より欬	果的に改	善するもの
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発	※目士る担占)	○・・・適切なもの△・・・課題があ		み美が,	込亜なもの	
	世のポイント である	△ 示限 / 1.0/		項目の着		課長評価
妥 ፟ ・上位施策(基本目標・施		為に必要な事業	<i>5</i> \			
当 🦉 ・今の社会情勢に見合う	事業内容となっ	っているか		本系に結 の必要性		
性 🖔 ・利用者・対象者の二一					_	
効 (・活動手法を見直し、人	牛費・事業費の	削減余地はない				
·				·労力で事 ıているカ		\cup
<u>└ ○ </u> 有 ◌ ・事業の目標が達成さ∤	アルスか		1			
効成	0.00.000				が表れて	
有 (・事業の目標が達成され 効 _果 性 ()			いるか)\		
②事業評価(今後の方向性に						
【今後の方向性】	高〔妥〕	当性·有効性〕				今後の
ロ声类の准は十の		- 声 光ナ 壮 仏 フ ー	1. D/±	_		方向性
B:事業の進め方の 低 改善の検討		ニ事業を進めるこ :改善して進める				
← C:事業規模·内容又I			<u></u>		加率性〕	A
D:事業の抜本的見直						A
	し、14 正 * 廃止					
	<u> </u>	071天 百3				2 -
		07 1关页]				, ,

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性 評価(所管課長)

引続き、各小学校に学習サポーターを配置し、授業改善推進プランに基づいた学習指導等、児童が在 籍する学級担任教諭等に対する助言並びに支援を行う。 今後は、学習サポーターの中学校配置の検討及び配置時間の拡大等を検討する。

平成28年度 【基本シー									
1.基本項目		作成				E学習 部	V - 324		教育支援課
事業名		開始		実施其	朋	事業種別自治事務(市		'手法	進行管理
5 特別支援教育支援員の充	実	平成	19 年	継続		独自)	直営		
01			年						
02			年						
03			年						
04			 年						
05			 年						
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	 じて学び育つま	+ +===	ᅙᄼ		<u>دد</u>		- 古 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世	≖ □	4
	して子び自りま	ち 施策	丛 万	3	子	校教育	争未	番号	4
2.事業の概要 事 通常の学級に在籍す	ス性別か古怪も	ぶぶ西か	日帝。	生往へ (カキー	望た女宝す?	スナーめ	数日の) 咨抜た右
** 西市の子板に任精り ** する特別支援教育支								Χ貝Ψ	7貝位で17
<u>容 </u> 根拠法令									
条例									
要綱等 羽村市特別	支援教育支援貞	員設置要	綱						
3.成果指標 成 市内小中学校におい	て 左矢坎に	+>1+ Z &	、	宇华。/	ν±+	で仕出の数	世去中	士.図 Z	
果	し、仕箱仪に	のいる光	连冲	古守への	リ又1	友体前の登	佣兀天	で図 る	0
標									
4.活動指標						3か年計画			
Plan(計画) 平成2	7年度(現況)	平成	28年月	度		2 成29年度		平成	30年度
		特別支援教育 学校7校に配				援教育支援員を 7校に配置及び必			『支援員を全小 ・配置 及び小学
間、週5日	1	応じて2人配		時間、に	応じて	2人配置 1日6	诗 校は	必要に応	じて2人配置 1
事業内容		週5日			引、週5			時間、週5	Ħ
	後教育支援員を二 所のに配置・検証 1	二中に配置・ 間、调4日	·検証 1	-	□学校(1、週4	3校に配置 1日6 日	時		
日6時間	、週3日								
LL 5.投入指標(成果の達成	<u> </u>	うために払	よみす	<u></u> る資源【	'	モノ・カネ】)			
	要する人数と	1人当たり	りの年	間業務	時間]			
職層∙職種別	平成27年		<u>平</u> 人数	式28年月 □ 掘 笛 □		平成29年	<u>- 度</u> - 時間	<u>平原</u> 人数	뷫30年度 概算時間
 係長職	人数 概 1 人	算時間 80 H	<u>入致</u> 1人	概算時	引即 0 H	人数 概算 1 人	·时间 80 H	<u>入致</u> 1人	
主事·主任職	1人	96 H	1人		6 H	1人	96 H	1人	96 H
②総事業費		± /=0 \= \ I		£ 0.0 /= =	-	T - 1 0 0 5	- 		
事業費の内訳(単位:千 事業費	円) 平成27年	<u> </u>	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	成28年月	<u>支</u> ,845	平成29年	- <u>度</u> 16,046	平月	<u> </u>
人件費(係長職)		404		13	398		398		398
人件費(主任・主事職)	346			327		327		327
総事業費(合計)		11,513		14	,570	1	6,771		17,871
国庫支出金都支出金		0			0		0		0
受益者負担額		0			0		0		0
その他特定財源		0			0		0		0
一般会計繰入金		0			0		0		0
起債 一般財源(人件費含額	.5)	0 11,513		1.4	0 570,	1	0 16,771		0 17,871
財源内訳(合計)	<i>,</i>	11,513			,570 ,570		6,771		17,871
③コスト計算		•							,
	31人における1	-				2	259 円		
イ 対象者	──人における1	人あたり	のコス	くトは、		⊘ =¬¹	円		
ウ成果物	の 出来高[のコスト	ı۴ 🔽		円

ア 市民 イ 対象者 ウ 成果物 ※ 対象者:

Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と ☑ 計画どおり完了 ☑ 計画を見直し完了(①活動実績(Plan【計画】及び事中評価におり ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場	次年度以降計画を! ける改善について本 合は、理由、内容な	見直す 年度 どを記	どのような 己入するこ	活動を実 と。	
市内小学校通常の学級に在籍する児童で発実させるため、特別支援教育支援員を週5日請により配置できる支援員を2名増員し対応第二中学校へ週3日(1日6時間)特別支援	日(1日6時間)で各点 に、早期支援ができ	小学校	へ配置し	た。さらに	、学校長の要
②投入実績 決算の内訳(単位:円) 予算額(当初) 「事業費 13,845,000			(最終) 3,845,000	決算 名	類 執行率 <mark>9,910</mark> 87.8%
 事業員) O	10	5,643,000	12,13	3,910 87.8%
前年度(今までの状況) 支援員の配置により、市内小中学校に在籍 する発達障害等のある児童・生徒に対し、 効果的な指導を提供することができた。ま た、学校運営全体としても有効なものとなっ た。	今年。 支援員の配置によ 等のある児童・生 ができた。また、学 た。	り、市 徒に対	i内小中学 し、効果i	的な指導を	する発達障害 提供すること
②4.活動指標のPlan【計画】において、目標(対象者(物)	┃ 直を数値化している ┃ 本年度:目標(場合	Ī	太年	
71 <i>3</i> 7 G (12)	が干汉・日际	<u> </u>	⇒	×+	文・人 作品 旧二
Check【評価】 8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点)	◎・・・適切であるが○・・・適切なもの△・・・課題があり、				
項目 評価のポイント]	項目の着	眼点	課長評価
妥 () - 上位施策(基本目標・施策)を達成する 当 要 ・ 今の社会情勢に見合う事業内容とな 性 ・ 利用者・対象者のニーズ(需要)はあ	っているか るか	事業の	本系に結びの必要性	はあるか	0
効 (・活動手法を見直し、人件費・事業費の 率 法 性)	削減余地はないか	経費・	を落とさず ·労力で事 ıているか	務が執	0
有 (*事業の目標が達成されているか 効 _果 性 ()		成果) いる <i>た</i>	又は効果	が表れて	0
②事業評価(今後の方向性についての視点)	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				\% \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\
<u> </u>	当性・有効性〕	7 (4	_	ľ	今後の 方向性
低 改善の検討 より効果的に ← C:事業規模・内容又は実施主体の D:事業の抜本的見直し、休止・廃止			当高	か率性 〕	Α
低					

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

通常の学級に在籍する発達障害等を抱える児童・生徒は増加傾向にあり、状況等に応じた特別支援教育支援員の配置により、各小中学校の対象となる児童・生徒において効率的かつ効果的な指導を提供することができた。今後は平成28年4月より「障害者差別解消法」が施行されたことにより、障害を理由とする不当な差別的な取扱いの禁止や本人の求めに応じて合理的な配慮を行うことが義務付けられたため、より特別支援教育への多様なニーズに対応していくためにも、現行の人数以上の人的配慮が必要になる。

平成28年度 【基本シート】									
1.基本項目		作成	部署	Ŀ	上涯学	<u> </u>	Σ ℝ		教育支援課
事業名			可包 年度	実施期間		- 日 - 5 業和		営手法	進行管理
6 特別支援教室の設置			- /文 24 年			治事務			是门日在
01			年						
02			年						
03			年						
04			年						
05			年						
関連課 学校教育課・生涯	E学習総務認	果							
基本目標 1 生涯を通じて学	どび育つまち	施策	区分	3	学校	教育	事	業番号	12
2.事業の概要	コキャッドルム	+ 18 +	- <i>/r/</i> c; 1.4	~ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	K '举 I	N #	· / 	18 TO 1 1 2 1	L 7 L 2 4+
等 特別な支援を必要とする児 業 別支援教室を設置します。 容 根拠法令		走か、仕	: 耤仪 ———	で週切な†	百得と	少 安	- (4文版7	い文けられ	れるよう、特
条例									
要綱等									
3.成果指標	ナカノー ナンノナ フ	· 24 '去压	·	宁继公公	88.亡	- #3	印产宝	77 ° 11	
市内全小中学校で、在籍 果 群・ADHD)及び疑い							到牌号。	アスヘル	レガー症候
					13 20	,			
│標│ ・在籍学級担任との連	携が図られ	ι、指導	ф内容(の充実を	図る。)			
4.活動指標									
Plan【計画】 平成27年度	度(現況)	亚战			37	(年計	<u>- का</u>		
			28年1	Ŧ l				平成	30年度
特別支援教室語		別支援教		施全同左	平成	、十百 【29年	度	平成 ^{同左}	30年度
校7校	7]5		室本格実	施全同左	平成		度		30年度
校7校 事業内容 全中学校へ巡@	7]5	別支援教 学校7校~	室本格実	施全同左	平 月		度		30年度
校7校	7]5	別支援教 学校7校~	室本格実	漢施 全 同左	平 月		度	同左	30年度
校7校 事業内容 全中学校へ巡回 事業量等 に向けて準備	小 司指導実施 同	別支援教 学校7校 <i>^</i> 左	室本格実、巡回指	藤 全 同左導 同左	平月 E	文29 年	度	同左	30年度
東業内容 事業量等 「に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及び	小田指導実施同	別支援教学校7校へ左	室本格集、巡回指	を使うである。	平 E : : : : : : :	文29 年	度	同左	30年度
表示校 事業内容 事業量等 全中学校へ巡回 に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及で ①人件費 【事務執行に要す	小型指導実施 同 び活動するかで る人数と1、 で成27年度	別支援教 学校7校へ 左 ために打 人当たり (現況)	室本格集 、巡回指 ・巡回指 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	施全原 京 高 高 高 高 高 で に に で で で で で で で で で で で で で	平月 E : : : : : : :	ノ・カ 平成	度 ネ】) 29年度	同左	成30年度
東業内容 事業量等 全中学校へ巡覧 に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及び 1)人件費 【事務執行に要す 職層・職種別	小 回指導実施 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 、 、 、 、 、 、 、 、	別支援教 学校7校へ 左 人 当たし (現況)	室本格集 、巡回指 りの年	施全 同を る 資源【ヒ 間 数 28年度 概算時	平月 E :ト・モ : 間】 	ノ・カ 平成	を ネ】) 29年度 概算時間	同左 平月 人数	成30年度 概算時間
東業内容 事業量等 全中学校へ巡回に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及ででのよりででである。 1)人件費 【事務執行に要す 職層・職種別 係長職	小 回指導実施 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 大数 「 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で	別支援教 学校7校へ 左 ために打 (現況) 時間 320 H	室本格集 、巡回指 ・巡回指 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	施全 原 る資源【ヒ 引業務時 成28年度 概算時 320	平月 〒 	ノカ 平成	を 注29年度 概算時間 320	同左 同左 平 J 人数 H 1 人	成30年度 概算時間 320 H
東業内容 事業量等 全中学校へ巡覧に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及でである。 ①人件費 【事務執行に要す 職層・職種別 係長職 主事・主任職	小 回指導実施 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 大数 「 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で	別支援教 学校7校へ 左 人 当たし (現況)	室本格集 ・ 公 ・ 公 ・ 公 ・ 公 ・ 公 ・ 公 ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ し ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	施全 原 る資源【ヒ 引業務時 成28年度 概算時 320	平月 E :ト・モ : 間】 	ノカ 平成	を 29年度 概算時間 320	同左同左	成30年度 概算時間
東業内容 事業量等 全中学校へ巡覧に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及で ①人件費 【事務執行に要す 職層・職種別 係長職 主事・主任職 ②総事業費	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校へ 左 人 当たり (現況) 日時間 320 H 160 H	空本格 サーク	施全 同な る資源【ヒ 間業務時 成28年度 概算時 320 160	平月 〒 	ノ・カ 平成 数 人 人	を (29年度 概算時間 320 160	同左 同左 引 人数 H 1 人 H 1 人	成30年度 概算時間 320 H 160 H
事業内容 事業量等 全中学校へ巡覧に向けて準備 5.投入指標(成果の達成、及で ①人件費 【事務執行に要す 職層・職種別 係長職 主事・主任職 ②総事業費 事業費の内訳(単位:千円) 事業費	小 回指導実施 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 大数 「 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で	別支援教 学校7校へ 左 人 当たり (現況) 日時間 320 H 160 H	空本格 サーク	施全 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高	平月 〒 	ノ・カ 平成 数 人 人	を 29年度 概算時間 320 160 29年度	同左 同左 引 人数 H 1 人 H 1 人	成30年度 概算時間 320 H 160 H 成30年度 818
東業内容 事業量等 を	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 ために持 (現況) 算時間 320 H 160 H (現況) 2,400 1,613	空本格 サーク	を 高 を 高 高 道 高 高 で で で で で で で で で で で で で	平月 三 	ノ・カ 平成 数 人 人	を 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5	同左 同左 引 人数 H 1 人 H 1 人 18 92	成30年度 概算時間 . 320 H . 160 H 成30年度 818 1,592
事業内容 事業量等 全中学校へ巡回に向けて準備 全中学校へ巡回に向けて準備 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校へ 左 ために注 (現況) (現況) (現況) (現況) 2,400 1,613 576	空本格 サーク	を を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を	平月 三 	ノ・カ 平成 数 人 人	ネ】) 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5:	同左 同左 引 人数 H 1 人 H 1 人 18 92 44	成30年度 概算時間 . 320 H . 160 H 成30年度 818 1,592 544
事業内容 事業量等 全中学校へ巡覧に向けて準備 全中学校へ巡覧に向けて準備 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 人当たり (現況) 時間 320 H 160 H (現況) 2,400 1,613 576 4,589	空本格 サーク	を 高 を 高 高 高 で で で で で で で で で で で で で	平月 E I I I I I I I I I I I I I I I I I I	ノ・カ 平成 数 人 人	を 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5	同左 同左 引 人数 H 1人 H 1人 H 1人 44 92 44 54	成30年度 概算時間 . 320 H . 160 H 成30年度 818 1,592 544 2,954
事業内容 事業量等 全中学校へ巡回に向けて準備 全中学校へ巡回に向けて準備 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校へ 左 ために注 (現況) (現況) (現況) (現況) 2,400 1,613 576	空本格 サーク	を を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を	平月 三 	ノ・カ 平成 数 人 人	ネ】) 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5:	同左 同左 引 人数 H 1 人 H 1 人 18 92 44	成30年度 概算時間 . 320 H . 160 H 成30年度 818 1,592 544
事業内容事業量等 を	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 人当たし (現況) 時間 320 H 160 H (現況) 2,400 1,613 576 4,589 0	空本格 サーク	を を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を	下下: 七間】 間 人 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ノ・カ 平成 数 人 人	ネ】) 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5:	同左 同左 引 人数 H 1人 H 1人 F18 92 44 54 0 0	成30年度 概算時間 320 H 160 H 成30年度 818 1,592 544 2,954 0 0
東業内容事業量等 を	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 人 (現況) (現況) (現況) (現況) (現況) (現況) (現況) (現況)	空本格 サーク	を を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を	平月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ノ・カ 平成 数 人 人	ネ】) 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5:	同左 同左 引 人数 H 1人 H 1人 18 92 44 54 0 0 0	成30年度 概算時間 . 320 H . 160 H 成30年度 818 1,592 544 2,954 0 0
東業内容事業量等 を	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 人 (現況) (時間 320 H 160 H (現況) 2,400 1,613 576 4,589 0 1,984 0 0	空本格 サーク	を を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を	平月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ノ・カ 平成 数 人 人	ネ】) 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5:	同左 同左 引 人数 H 1人 H 1人 H 1人 54 0 0 0 0	成30年度 概算時間 320 H 160 H 1592 544 2,954 0 0 0
事業内容事業量等 を	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 人当たし (現況) 時間 320 H 160 H (現況) 2,400 1,613 576 4,589 0 1,984 0 0 0	空本格 サーク	施全 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高	平月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ノ・カ 平成 数 人 人	を 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,55 2,9	同左 同左 引 人数 H 1人 H 1人 18 92 44 54 0 0 0 0 0	成30年度 概算時間 320 H 160 H 1592 544 2,954 0 0 0
東業内容事業量等 を	小 回指導実施 の が活動するか る人数と1、 平成27年度 人数 概算 1 人	別支援教 学校7校~ 左 人 (現況) (時間 320 H 160 H (現況) 2,400 1,613 576 4,589 0 1,984 0 0	空本格 サーク	を を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を 高を でである。 高を でである。 高を でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でのある。 でのある。 でのまる。 での。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 での。 でのまる。 でのる。 でのる。 でのる。 での。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 での。 での。 でのま。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのま。 でのまる。 でのまる。 でのまる。 でのま。 でのまる。 でのま。 での。 での。 でのま。 でのま。 での。 で。 での。 でのま。 での。 での。 での。 での。 で。 での。 での。 で。 での。 での	平月 下・モ 間	ノ・カ 平成 数 人 人	ネ】) 29年度 概算時間 320 160 29年度 8 1,5:	同左 同左 引 人数 H 1人 H 1人 H 54 0 0 0 0 0 0 0	成30年度 概算時間 320 H 160 H 1592 544 2,954 0 0 0

56,281人における1人あたりのコストは、

の出来高

人における<u>1人あ</u>たりのコストは、

54 円

円

のコストは

ウ 成果物 ※ 対象者:

イ 対象者

ア 市民

Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活 ☑計画どおり完了 ☑ 計画を見直 ①活動実績(Plan【計画】及び事中記 ※計画を見直し完了、遅延、中断と	iし完了(ダ 呼価におけ	マ年度以降計画 る改善について	を見直す な年度と	ご のような		中断施したか	
平成28年4月から全小学校7校に 障害(自閉症・学習障害・アスペル 指導の充実を図った。							
②投入実績	· \$\frac{1}{2} \frac{1}{2} \fr	华工 法四岁	7 th to	(日 4/2)	24 <i>6</i> 5 ¢	ж I ±	+ <= -/
決算の内訳(単位:円) 予算 事業費	<u>額(当初)</u> 894,000	補正•流用額	予算額		決算名	貝 ¥ 1,053	<u>执行率</u> 62.8%
 	894,000			894,000	30	1,003	02.8%
バス末幅末 ①活動、投入実績から生じた成果(物)						
前年度(今までの状況)	1237	今	年度(どう	いう状態	になったか	١)	
特別支援教室モデル事業の実施、	検証、報						教室」
告のため、全小学校7校で巡回指導		事業が本格実施					
した。		増加。在籍校に					
		いる児童が増加	0している	00			
②4.活動指標のPlan【計画】におい	て、目標値	を数値化してい	る場合				
対象者(物)		本年度:目			本年月	隻∶実績	値
				⇒			
Check【評価】 8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見す		◎・・・適切であ○・・・適切なもの△・・・課題があ	の			善するも	_ව ග
項目 評価の7	ポイント			頁目の着		課長	評価
妥 û ·上位施策(基本目標·施策)を 当 要 ·今の社会情勢に見合う事業 性 ^b ·利用者·対象者のニーズ(需	達成する	為に必要な事業	か協策化	本系に結び	バつくか		
当 要 ・今の社会情勢に見合う事業	内容となっ	っているか		かぶる間に)
性 🖰 ・利用者・対象者のニーズ (需	要)はある	らか					
効 🥎 ・活動手法を見直し、人件費・	事業費の	削減余地はない					
<u> </u>				労力で事			ノ
率 注 性) 有 (・事業の目標が達成されてい 効 果 性)	フ ム 、		11767	にているか	`		
有 (・事業の目標が達成されてい	るか		一 成果ス	スは効果	が表れて		\
刈 果			一 いるか	N			ノ
<u> </u>	(の視占)		<u>!</u>		<u> </u>		
<u> </u>		当性·有効性〕				今後	ŧΦ
1		137731-2				方向	-
B:事業の進め方の A:計i	画どおりに	事業を進めるこ	と、又は	$\overline{}$			
		改善して進める	ことが適			_	
← <u>C:事業規模・内容又は実</u> 抗]→〔刻]率性〕		
D:事業の抜本的見直し、位	下止・廃止	の検討					1
↓	/ 耳						
	低						

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

今後は、中学校における特別支援教育をより一層推進していいくために、通級指導学級が設置されていない羽村第二中学校において巡回指導を行えるよう検討・試行をしていく必要がある。

平成28年度 【基本シート】								
1.基本項目		作成部			涯学習 兽			学校教育課
事業名		開始年		実施期間	事業種自治事務	x/±	営手法	進行管理
7 職層研修等の実施		不明	牛	継続	独自)	直営	<u> </u>	
01			年					
02			年					
03			 年		-			
04			年					
05			年					
関連課		1				· ·		1
基本目標 1 生涯を通じて学	どび育つまち	施策区	☑分	3 -	学校教育	事	業番号	11
2.事業の概要			rr /	1. 1. <i>1.</i> 1. 1.	, , , , , , ,			- 1
事 教職員がライフステージに業内容	応じて求めり	うれる貧	質•前	を 力を 身に かんしゅう	付けるた	め研修を	手施しま	
根拠法令 条例								
要綱等								
3.成果指標								
成 東京都の実施する管理職 果 た研修を実施する。 情	育成に向け	た諸研修	多と(の連携を図	り、ライ	イフステ	ージや聙	は層に応じ
4.活動指標								
Plan(計画) 平成27年度	度(現況) —	ग्रा कि 0	ᅂ	\$	3か年計		ਹ ਹੈ:	20年度
ミドルリーダー首	育成研修 同之	平成28 5 4回	8 平 ß	同左	平成29年 ^{4回}		<u> </u>	30年度
年4回 若手教員育成成 対象 事業内容 事業量等 学校リーダー研 ネージメント講庭 主任教諭・主幹 職対象	修 学校マ 同2 至 9回	左 9回		同左	9回	I	司左 9回	
5.投入指標(成果の達成、及び ①人件費 【事務執行に要す	⁻ る人数と1丿	く当たり(の年	間業務時間]]			P
職層∙職種別	平成27年度 人数 概算		平月 人数	成28年度 概算時間		,29年度 概算時間		成30年度 <u> </u> 【概算時間
	0人		0 人	196. 牙呵 间 0 ト		<u>1फ्र.इर.⊬जा</u> ह 0		
主事·主任職	1人		1人	1 F			H 1人	1 H
②総事業費	1	/TE \E \		+ o o + - +	1		1 =	+ o o /= r
事業費の内訳(単位:千円) 事業費	平成27年度	(現況) 30	平月	<u>成28年度</u> 30		29年度	<u>半</u> 月 30	<u>成30年度</u> 30
人件費(係長職)		0			0	`	0	0
人件費(主任・主事職)		4		4	4		4	4
総事業費(合計)		34		34			34	34
国庫支出金 都支出金		0			0		0	0
受益者負担額		0			0		0	0
その他特定財源		0			0		0	0
一般会計繰入金 起債		0			0		0	0
<u> </u> <u> </u>		34		34		:	34	34
財源内訳(合計)		34		34			34	34
③コスト計算 ス 市民 56 2011 A	<u></u>	<u> </u>	ת			-		
イ 対象者 259 人	における1人 における1人 出来高				<i>(</i>)	1 131 ストは		

Do(実行) 【進行管理】 6.実施結果(本年度における レ]計画どおり完了 □ 計画 ①活動実績(Plan【計画】及び ※計画を見直し完了、遅延、	画を見直し完了(2 が事中評価におけ	欠年度以降計画を ける改善についてな	·見直す) <u></u> 本年度どのような		□ 中断 施したか)
学校教育の充実には、教員図った。					修の充実を
<u>②投入美額</u> 決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正·流用額	予算額(最終)	 決算額	額 執行率
事業費	30,000		<u> </u>		20,000 66.7%
7.成果結果 ①活動、投入実績から生じた 前年度(今までの	た成果(物)		<u> </u>		
<u> </u>	回、学校リー	今年度は、ミドルリ	リーダー育成研	修会4回、	学校リーダー
②4.活動指標のPlan【計画】 対象者(物)	において、目標値	直を数値化している 本年度:目標		本年月	度∶実績値
ミドルリーダー育成研修 学校リーダー研修		4回 9回	⇒		4回 23回
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、課題を		◎・・・適切である ○・・・適切なもの △・・・課題があり	, <u>、今後、改善が</u> !	<u>必要なもの</u>)
	評価のポイント	ツィーン 亜 4 声 歩 4	項目の着	眼点	課長評価
妥 (a) 	う事業内容となって(需要)はある	っているか るか	→ 事業の必要性	はあるか	0
効 (・活動手法を見直し、) 率 法 性 ()	、件費・事業費の	 削減余地はないか 	∖」成果を落とさす 経費・労力で事 行されているか	事務が執	0
<u></u> 有 ੵ •事業の目標が達成さ	れているか		i		
効 果 性 ₍₎			─成果又は効果 ─ いるか	か衣れし	
②事業評価(今後の方向性) 【今後の方向性】		当性•有効性〕			今後の
【学後の方向性】 B:事業の進め方の	1	当性・有効性」 	- ∀ I‡.		方向性
低 改善の検討	より効果的に 又は実施主体の見	改善して進めるこ 見直しの検討	とが適当 高	効率性〕	Α
	低				
Action【改善】 評価から導かれる今後の課	題と方向性				
評価(所管課長)					
今後も各校の実態及び喫緊	の教育課題等を	踏まえた研修を展	開していく。		

平成28年度 【基本シー	-]							
1.基本項目			部署		学習 部	11 N T 22		教育支援課
事業名			年度	実施期間	事業種類	引 連宮	手法_	進行管理
8 スクールソーシャルワーカー	の充実	平成	20 年	継続	自治事務	直営		
01			年					
02			年					
03			年					
04			<u>-</u> 年					
05	7 * - + 1	<u> </u>	年					
関連課 学校教育課・- 基本目標 1 生涯を通じ			マム	o #	计分数字	- 市 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世 - 世	· 平 口	5
	(子の目	フまら 肥束	区分	3 学	校教育	尹未	番号	ິນ
2.事業の概要 事スクールソーシャルワー	カ た.揺	그러 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그 그	눌러 노	の調節学に	1月/で 北約月月	し油 惟しっ	て働きも	ハナスナンビ
業 の支援の充実を図りま 内 容		貝し、佐王ド	引火工	の味ぬずに	天 木 衣 天	と建捞し	に倒さん	ነነ
根拠法令								
条例								
要綱等 3.成果指標								
成虐待や家庭に起因する	5児童・4	= 徒の問題ぞ	·動等(の課題の円	滑な解決	ができる		
果目標	,,,,,, <u>, </u>	_ v⊂ ∧ > ⊢1 v∞	12077	,	H '6/11//	,,	0	
4.活動指標								
Plan (計画) 平成27	年度(現況	7) 平成	28年月		3か年計画 成29年月	•	平成	30年度
	ーシャルワー	同左		同左	19020 1 12	同名		00 12
カーによる 事業内容 事業量等		年104日×2	.	年144日	∃×2人			
5.投入指標(成果の達成、						.])		
①人件費 【事務執行に要	要する人数	女と1人当た	りの年 	間業務時間	<u> </u>	. 		۲ / ح.
職層∙職種別		7年度(現況)		成28年度 	平成2		人数	成30年度 概算時間
	人数 0 人	概算時間 0 H	人数 0 人	概算時間		<u>算時間</u> 0 H	0人	阪 昇时间 0 H
主事・主任職	1人	16 H	0 /					0 11
②総事業費			1 人	0 H 16 H	0人		1 人	16 H
		10 11	1人	16 H		16 H		16 H
事業費の内訳 (単位:千円]) 平成2	7年度(現況)	1 人	16 H 成28年度		16 H	1人	16 H 成30年度
事業費]) 平成2	7年度(現況) 1,440	1 人	16 H 成28年度 2,122	1人	16 H 9年度 2,880	1人	戊30年度 2,880
事業費 人件費(係長職)]) 平成2	7年度(現況 <u>)</u> 1,440 0	1 人	16 H 或28年度 2,122 0	平成2	16 H 9年度 2,880 0	1人	成30年度 2,880 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任·主事職)]) 平成2	7年度(現況) 1,440 0 58	平月	16 H 成28年度 2,122 0 55	平成2	16 H 9年度 2,880 0 55	1人	戊30年度 2,880 0 55
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任·主事職) 総事業費(合計)]) 平成2	7年度(現況 <u>)</u> 1,440 0	平 5	16 H 或28年度 2,122 0	平成2	16 H 9年度 2,880 0	1人	成30年度 2,880 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任·主事職)]) 平成2	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498	平原	九6 H 成28年度 2,122 0 55 2,177	平成2	16 H 9年度 2,880 0 55 2,935	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任·主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額]) 平成2	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720	平原	式28年度 2,122 0 55 2,177 0	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源]) 平成2	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0	1人	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金]) 平成2	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0	平原	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金 起債		7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0 0	平原	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0 0	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金 起債 一般財源(人件費含む		7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0 0 0	平 5	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0 0	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金 起債		7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0 0	1 人	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0 0 0	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金 起債 一般財源(人件費含む 財源内訳(合計) ③コスト計算)	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0 0 0		16 H 或28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0 0 1,116 2,177	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0 0	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金 起債 一般財源(人件費含む 財源内訳(合計) ③コスト計算) 人におけ	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0 0 0 778 1,498	Joaz	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0 0 0 1,116 2,177	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0 0 1,467 2,935	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0 1,467 2,935
事業費 人件費(係長職) 人件費(主任・主事職) 総事業費(合計) 国庫支出金 都支出金 受益者負担額 その他特定財源 一般会計繰入金 起債 一般財源(人件費含む 財源内訳(合計) ③コスト計算 ア市民 56,281) 人におけ	7年度(現況) 1,440 0 58 1,498 0 720 0 0 0 778 1,498	Joaz	式28年度 2,122 0 55 2,177 0 1,061 0 0 0 1,116 2,177	平成2	9年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0 1,467 2,935	1人	成30年度 2,880 0 55 2,935 0 1,468 0 0

	4.2年至4七年1	- +□ 1 +比+= へ/+	· 田 \			
6.実施結果(本年度における、					¹EZT. [
□計画どおり完了 □計画で						中断
①活動実績(Plan【計画】及び ※計画を見直し完了、遅延、「						他したかり
社会福祉士等の資格を持った						- 二市均区
配置を行い、小・中学校からの						
保護者や児童と面接を行うと						
の改善に努めた。			C-112 H/-12		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
<u>②投入天順</u> 決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額	(最終)		
事業費	2,122,000	TH 11 / 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1		2,122,000		5,408 72.4
7.成果結果	_,:,;;;		_	, ,	1,00	7
①活動、投入実績から生じた!	成果(物)					
前年度(今までの状					になったか	
不登校等の児童・生徒への対	応を図った。	不登校等の児童		への対応す	主実を図っ	た。
支援対象となった人数		支援対象となった				
小学校7人 中学校11人		小学校14人 中	字仪19	9人		
②4.活動指標のPlan【計画】に	センナ 日煙点	ちた粉値ルしている	ᇫᄖᅩᄉ			
<u>②4.冶動指標のPlant</u> 計画加 対象者(物)	<u>.のいて、日保恒</u>	本年度:目標		ľ	太年[度:実績値
713/10/10/		个十八人:□ 18	K IIE	→	7T'1.	文:入限に
				_		
		○ 冷切った 7	· 18 . 🛆 🤄	终 同力	. EE 661-76	* ナフナの
Check【評価】		◎・・・適切である○・・・適切である		後、より対	果的に改	善するもの
8.評価	≱見する視占)	〇・・・適切なもの)			善するもの
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を多) J、今後、	、改善が』	必要なもの	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を 須 項目 評	価のポイント	○・・・適切なもの △・・・課題があり) J、今後、 	、改善が』 項目の着	必要なもの眼点	善するもの 課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を 項目 評 妥 ͡ଛ ・上位施策(基本目標・施	価のポイント 策)を達成する	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が) リ、今後、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、改善が』 項目の着 本系に結	必要なもの 眼点 びつくか、	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目 評グ	価のポイント 策)を達成する う事業内容となっ ズ(需要)はある	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) リ、今後、 ・ ・ 施策(・ 事業(、改善が 項目の着 本系に結 の必要性	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目 評グ	価のポイント 策)を達成する う事業内容となっ ズ(需要)はある	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) , 今後, , 施策(事業(、改善が』 項目の着 本系に結び の必要性 を落とさず	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目 評グ	価のポイント 策)を達成する う事業内容となっ ズ(需要)はある	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) 、今後、 施策(事 成 果 で 経費・	、改善が 項目の着 本系に結 の必要性 を落とさず 労力で事	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目 妥 。 ・上位施策(基本目標・施当要・今の社会情勢に見合き・利用者・対象者のニー効効率法。)	価のポイント 意策)を達成する 事業内容とな ズ(需要)はある 件費・事業費の	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) 、今後、 施策(事 成 異 で 経費・	、改善が』 項目の着 本系に結び の必要性 を落とさず	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発項目 妥(w) ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合き) 性(w) ・利用者・対象者のニー 効率性 カ(ボー・事業の目標が達成され	価のポイント 意策)を達成する 事業内容とな ズ(需要)はある 件費・事業費の	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、改善が加 項目の着 本系に結 か必要性 を落とさず 労力で事 いているか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を 項目 ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合う 性・・利用者・対象者のニー 効率性 ・活動手法を見直し、人作 対象理 ・事業の目標が達成され 効果	価のポイント 意策)を達成する 事業内容とな ズ(需要)はある 件費・事業費の	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、改善が加 項目の着 本系要性 を落力でき いているか 又は効果	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発項目 評価) 妥・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合う) ・利用者・対象者のニー 効率性 ・ 事業の目標が達成され	価のポイント 意策)を達成する 事業内容とな ズ(需要)はあ 件費・事業費の	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) 今後 施事 成経行 成 で で で で で の で の の の の の の の の の の の の の	、改善が加 項目の着 本系要性 を落力でき いているか 又は効果	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目 妥 - 上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合き・利用者・対象者のニー・活動手法を見直し、人体を関係。 ・事業の目標が達成される。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	価のポイント (策)を達成する (事業内容となっズ(需要)はある (本費・事業費の しているか	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか 削減余地はないか) 今後 施事 成経行 成 で で で で で の で の の の の の の の の の の の の の	、改善が加 項目の着 本系要性 を落力でき いているか 又は効果	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発項目 評価) 妥・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合う) ・利用者・対象者のニー 効率性 ・ 事業の目標が達成され	価のポイント (策)を達成する (事業内容となっズ(需要)はある (本費・事業費の しているか	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか) 今後 施事 成経行 成 で で で で で の で の の の の の の の の の の の の の	、改善が加 項目の着 本系要性 を落力でき いているか 又は効果	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発項目 妥(立) ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合う) ・利用者・対象者のニー 効率性 ・ ・	価のポイント (策)を達成する。 (5事業内容となっズ(需要)はある。 大学・事業費の はているか ついての視点) 高〔妥論	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか 削減余地はないか) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	、改善が 項目の着 本系要と を 第力で を 対てい 対 は 対 ス は 対 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目) ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合き・利用者・対象者のニー・活動手法を見直し、人体・事業の目標が達成されて、人の、事法・事業の目標が達成されて、人の、事業の目標が達成されて、人の、事業の目標が達成されて、人の、事業の目標が達成されて、「会後の方向性」 B:事業の進め方の、改善の検討	価のポイント (策)を達成する。 (事業内容となって、 (事要)はある。 大(需要)はある。 本費・事業費の ついての視点) へ高[妥当 人は、 本計画どおりに より効果的に	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか 削減余地はないが 当性・有効性〕 事業を進めること 改善して進めること) 人 今 後 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、改善が 項目の着 本必 を 第カい を 第カい な で は 対 で る の の の の の の の の の の の の の の の の の の	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目) 妥 ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合き・利用者・対象者のニー・活動手法を見直し、人体・事業の目標が達成されて、人の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の	価のポイント (策)を達成する。 (事業内容となぶ(需要)はある。 (本費・事業費の) (本費・事業費の) (本計画とおりにより効果的には実施主体の)	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか 削減余地はないが 当性・有効性〕 事業を進めること で改善して進めること ではあること ではあること) 人 今 後 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、改善が 項目の着 本必 を 第カい を 第カい な で は 対 で る の の の の の の の の の の の の の の の の の の	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の 務が執	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目) ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合き・利用者・対象者のニー・活動手法を見直し、人体・事業の目標が達成されて、人の、事法・事業の目標が達成されて、人の、事業の目標が達成されて、人の、事業の目標が達成されて、人の、事業の目標が達成されて、「会後の方向性」 B:事業の進め方の、改善の検討	価のポイント (策)を達成する。 (事業内容となぶ(需要)はある。 (本費・事業費の) (本費・事業費の) (本計画とおりにより効果的には実施主体の)	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか 削減余地はないが 当性・有効性〕 事業を進めること で改善して進めること ではあること ではあること) 人 今 後 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、改善が 項目の着 本必 を 第カい を 第カい な で は 対 で る の の の の の の の の の の の の の の の の の の	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発現目) 妥 ・上位施策(基本目標・施・今の社会情勢に見合き・利用者・対象者のニー・活動手法を見直し、人体・事業の目標が達成されて、人の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の	価のポイント (策)を達成する。 (事業内容となぶ(需要)はある。 (本費・事業費の) (本費・事業費の) (本計画とおりにより効果的には実施主体の)	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業が っているか るか 削減余地はないが 当性・有効性〕 事業を進めること で改善して進めること ではあること ではあること) 人 今 後 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、改善が 項目の着 本必 を 第カい を 第カい な で は 対 で る の の の の の の の の の の の の の の の の の の	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	課長評価

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性 評価(所管課長)

社会福祉士等の資格を持ったスクールソーシャルワーカーを1名増員配置したことにより、より多くの児 童・生徒の家庭訪問等の機会を増やし、学校だけでは解決できない家庭等における課題のある児童・ 生徒の情報を学校と共有し、保護者や児童・生徒と面接を行うと伴に、学校内外の関係機関との連絡調整を図り、児童・生徒の生活環境の改善を図ることができた。今後も、家庭環境等に起因する長期欠 席児童・生徒の対応を行うことで、小・中学校の不登校(傾向)児童・生徒への支援の充実に努める。

平成	,28	8年度		【基	本シート	.]											
		項目	-							龙部署	L		E学習				教育支援課
					事業名				開始	台年度	実施	期間	事業	種別_	運;	営手法_	進行管理
9 教	育	相談員	員に	よる	巡回相談(の充	実		平成	25 年	継続		自治事	務	直営		
0	1									年							
02	2									 年							
03	-									<u>-</u> 年	ŀ				 		
	╌┼														 		
04	4									年	ŀ				<u> </u>		
0;										年							
関	連	課	学	校教	汝育課												T
基本		目標	1	生	圧を通じて	て学	び育っ	つまれ	ち 施領	(区分	3	学	校教育	育	事	業番号	6
		の概		111 -		44.11	- 1++ /-					1. 1		. A 14			*/ ** *= */
業 ∈					育相談体⁵ 椌校への⁵										配直	に加え、	教育相談
	₹1.	_ - ক ত	,,[,,	+	- 作文 * へいフ・	1寸 /	"以又[友	分	引(天) 9	る無国	1个目录7	さルチ	U & 9	0			
容 根拠	归	令															
条例																	
要綱3成		· !指標															
成市				学	交で、き	め	細かた	ì教i	育相談	体制の	整備を	行う	ととも	に、	持別3	支援教室	の活用及
					つながる												
標																	
4.活	動	指標											こととに	्रा क			
P	laı	n【計I	■)		平成27年	丰厚	夏(現況	2) -	亚 F	或28年 <i>[</i>	<u></u>		3か年i Z成29			亚战	30年度
					全小中学校				<u> </u>	<u> </u>	<u>×</u>	同左	120-	<u> </u>	同	<u> </u>	<u>00+1X</u>
				-	クールカウン	ノセラ	ラー 週1	目									
					全小学校7k 教育に関す	交へ	の特別支	援	司左			同左			同	左	
	-	業内	_		教育に関す 1回	つ巡	凹怕談	迴									
1 1	事	業量	寺		全中学校3村	交へ	の特別す	接信	司左			全中学:	校3校へ(の特別す	支援 全	·中学校3校	への特別支援
				;	表育に関す 検討				-				関する巡		の教		巡回相談の実
					快的							高八1 J			Jīα	ᆺᄤᆝᄖ	
_					の達成、									りネ】)			
<u>①人</u>	.件	-費	【事	務	執行に要	きす			<u>人当た</u> 隻(現況)					戊29年	一	1 77.	成30年度
		職層	를•፤	敞租	刨		人数		算時間		成28年 Ⅰ 概算	<u>-反</u> -時間	人数		- <u>反</u> 時間		<u>₩30年度</u> ┃概算時間
係長	:睄	t					1人	170	32 H		1	32 H		17031	32 F		+
		主任即					1人		96 H	1人		96 H	1人		96 F		
		業費 で の内		/ H	单位:千円	١	可はつ	7年日	度(現況)	ा ज	成28年	由	। ज	戊29年	一	T 57.	成30年度
		<u>[[[]]]</u>	加	브	-1四:十口)	十八八.2	/ + /	<u>えく死ルル</u> 16,778			-皮 17,024			- 皮 19,730		火30平度 19,736
人	<u> </u>	牛費((162			160			160	0	160
					上事職)				346			327			32		327
		養(含 重支出							17,286		1	1 7,511 0			20,22	3 	20,223
		* 又 L 支出 会							(0					0
受	21	益者負	負担						(0				0	C
7		り他特							(0				0	C
-	- 州 己付	设 会 言	†褓	人:	並				(0))	C
			()	人件	-費含む)				17,286		-	17,511		2	20,22	_	20,223
	村]訳(台	信台						17,286			7,511			20,22		20,223
_		ト計算	拿		E0.003	 ı			1 + 1						 		
アオイタ					56,281				-					3	311 P		
コメウル							こめり出来		人のに	りのコス	ヘトル・		<u></u>	コスト]	H.
1 12	ر ب	- INJ				"	<u>п</u> //	וריו					٠,٠		.∽ ∟		

ア市民 イ対象者 ウ成果物 ※対象者:

平成28年度 【事後評価】 Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果) ||遅延 中断 ①活動実績(Plan【計画】及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか) ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。 東京都のスクールカウンセラー事業の活用や教育相談室の相談員を全小学校に週1回、全中学校に 月1回配置している。学校という身近なところでの相談場所を確保したことにより、児童・生徒・教員から の相談に応じることができた。 ②投入実績 決算の内訳(単位:円) 予算額(当初) | 補正・流用額 予算額(最終) 決算額 執行率 事業費 17.024.000 17.024.000 16,462,970 96.7% 7.成果結果 ①活動、投入実績から生じた成果(物) 前年度(今までの状況) 今年度(どういう状態になったか) 【スクールカウンセラー】 【スクールカウンセラー】週1回訪問 小学校巡回相談件数 3,806件 小学校巡回相談件数 4,398件 中学校巡回相談件数 1,264件 中学校巡回相談件数 【教育相談室相談員】 【教育相談室相談員】小学校 週1回 中学校 月1回訪 問 小学校巡回相談件数 2,413件 小学校巡回相談件数 2.539件 中学校への巡回 授業観察・教員との情報交換 ②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合 対象者(物) 本年度:目標値 本年度:実績値 ◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの Check【評価】 8.評価 〇・・・適切なもの ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの 項目 評価のポイント 課長評価 項目の着眼点 ・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか 妥 施策体系に結びつくか、 事業の必要性はあるか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか ・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか!成果を落とさず、最少の 効 丰 率 経費・労力で事務が執 法 性心 行されているか 事業の目標が達成されているか 有 成果又は効果が表れて 成 効業 いるか 性① ②事業評価(今後の方向性についての視点) 【今後の方向性】 高〔妥当性•有効性〕 今後の 方向性 B:事業の進め方の A:計画どおりに事業を進めること、又は、

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

改善の検討

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討

低

D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

評価(所管課長)

東京都スクールカウンセラー事業の活用や教育相談室の相談員を全小学校に週1回配置することにより、身近な場所で、児童・生徒・教員が相談できる体制を確保できている。また、中学校において教育相談室の相談員を月1回派遣をし、授業観察や教員との情報交換をすることにより、特別支援教育に関する学級での配慮について具体的に検討することができた。

より効果的に改善して進めることが適当

→〔効率性〕

	28年月	_	【基本シート】											
1.基	本項目		古光力				部署	亩 ₩		E学習 東東		· 字		教育支援課
		3 4 1 1 4	事業名				年度		期間	事業自治事			営手法_	進行管理
10 中	字校小	登校:	等対応指導員の配	配直		平成	10 年	継続		独自)	333 (- 1 -	直営		
01							年							
02							 年							
03							 年							
														
04							— 年					ļ		
05							年							
関注	連課	学村	交教育課					•		•				
基本	目標	1	生涯を通じて覚	学び育っ	つまち	施策	区分	3	学	校教	育	事	業番号	7
2.事	業の根	要												Į
事中	学校	不登	校対応指導員	の配置	により	人中的	学校で	集団生	E活に	なじめ	ない生	徒や	b不登校(の生徒を支
業 援	します	0												
容														
根拠	法令													
条例要綱														
3.成		<u> </u>												
成中			ける不登校生	徒の出	現率	が減り	りする。	o						
果														
標														
4.活	勆指桿	Ē								5 l. F	=1 ===			
Pla	an【計	画)	平成27年原	度(現沂	!) —	亚티	28年月	存		3か年 ゼ成29			亚战	
			学校適応指導	数室に指導			<u> </u>	<u> </u>	同左	- 1火23	十尺	同	<u>〒/戊</u> 引左	00十尺
_	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ		員を配置 月16	日										
	事業内 事業量		各中学校3校へ			Ē			同左			同	7左	
7	未里	.च	※指導員は東京	京都の雇用	#									
= +0.	3 TF T3			, (* 1T FL.	<u> </u>	41-4	ыл. э <u>ш</u>	フ :を 10	 	- , -	L -1. 1\			
5.投 <i>。</i> ①人			果の達成、及び 務執行に要す							_	カネ』)			
				平成27				成28年			成29年	度	平原	成30年度
	職.	曽╹墹	战種別	人数	概算		人数		時間	人数	概算			概算時間
係長		- 11.		0人		0 H			0 H	0人		0 F		0 H
主事				1人		96 H	1人		96 H	1人		96 F	1 1人	96 H
	事業費		(単位:千円)	平成27	7年度/	趙辺/	<u> 17</u>	或28年	度	亚	成29年	き	亚目	成30年度
	業費	7 <u>0</u> 1	(辛匹.111)	1 19,2	/ 十/文 \	<u> </u>	1	火20十	0	1 /	火20円		0	火50平皮 0
人	件費(0			0				0	0
			・主事職)			346			327			32		327
総事:	<u>業費(</u> 庫支)	<u>台計</u> 山本)			346	1		327			32		327 0
割割	支出:	<u>山亚</u> 会				0			0				0	0
受	益者	負担	額			0			0				0	0
そ	の他特	寺定!	財源			0			0				0	0
	般会	計繰	入金			0			0				0	0
	債 船財	佰()	、件費含む)			0 346			0 327			32	7	0 327
財源						346			327			32		327 327
	スト計		•	ļ						<u> </u>			- 1	<u> </u>
ア市	民		56,281 人	におけ	る1人	あたり	りのコス	ストは、				6 F		
イ対				におけ		<u>.あ</u> た「	りのコス	ストは、				F	<u> </u>	
ウ成				出来	高					の	コスト	は		円
X 対	象者:												<u> </u>	

D o【実行】 【 進行管理】 <u>6.実</u> 施結果(本年度 <u>にお</u> ける、4.活動指	煙と 5 投 7	・指煙の約	吉里)			
□計画どおり完了 □計画を見直し完					遅延	中断
①活動実績(Plan【計画】及び事中評価/						施したか)
※計画を見直し完了、遅延、中断となっ						c 첫 뉴 쉬 는 1년
小・中学校で集団になじめない児童・生 導員を配置し、学校適応指導教室での			土灰と又加	友していく	12011-1	N
THE TOTAL CO.		,,,				
シスパス優 決算の内訳(単位:円) 予算額(i	当初) 補正	·流用額	予算額((最終)	決算額	頁 執行率
事業費	0			0		_
7.成果結果 ①活動、投入実績から生じた成果(物)						
<u> </u>			年度(どう)	いう状態	になったカ	v)
不登校児童・生徒の学校生活への復帰	校等、集団に					
向けた指導を実施したが、不登校出現			・生徒につ	ついても労	や級復帰に	向けた指導
依然としてあり、平成27年度 3.81%で増 向にある。			不多垃土	: 往中用:	気け亚成?	8年度3.83%で
PJにめる。	増加し)小豆似工	10世纪2	さる十八人	0 千 及 3.03 // C
②4.活動指標のPlan【計画】において、E			る場合			
対象者(物)	本	年度:目標	標値		本年	度∶実績値
				⇒		
				-		
		さいっと	フェミ 人以	. L.I. L L	H 441-74	* +7+0
Check【評価】 8.評価		適切であ 適切なもの		え、より幼	未的に以	善するもの
①事業評価(改善等、課題を発見する 視			り、今後、	改善が必	必要なもの	
項目 評価のポイン			項	目の着	眼点	課長評価
妥 ☆ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	する為に必	<u>要な事業</u>	か施策体	系に結び	ぶつくか、	
妥 û ·上位施策(基本目標·施策)を達成 当 要 ·今の社会情勢に見合う事業内容 性 ·利用者·対象者のニーズ(需要)	<u>になっている</u> はあるか	יעכ	―事業の)必要性(まあるか	
効 ○ ・活動手法を見直し、人件費・事業	費の削減余	地はない	か 成果を	・落とさず	、最少の	
率				労力で事	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
性			行され	ているか	\	
有 (・事業の目標が達成されているか 効 成					が表れて	
有 (・事業の目標が達成されているか 効 _果 性 ()			― いるか	•		
②事業評価(今後の方向性についての			-		1.5	
【今後の方向性】 高 ↑	〔妥当性·有	ī効性〕				今後の 方向性
	おりに事業を					
低 改善の検討 より効果	とのに改善し	て進める	ことが適当		. 	
← C:事業規模・内容又は実施主 D:事業の抜本的見直し、休止・	本の見但し(廃止の検討	ノ検討		→ [ঐ]率性〕	Α
□・事業の派外の元直し、休止・	元エリア氏					
低						

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性 評価(所管課長)

基本計画を策定した平成24年当時に比べて、こどもを取り巻く環境の複雑化などにより中学校における 不登校率は増加傾向にあり、当初目標(出現率2%)は達成されていないが、小・中学校で集団になじめ ない児童・生徒や不登校の児童・生徒を支援していくうえで不登校対応指導員の配置は有効である。、 今後も、不登校対応指導員を配置し、学校復帰への指導が必要である。

平成28年度 【基本シート】									
1.基本項目			部署		涯学習		VET 237		学校教育課
事業名		開始	年度	実施期間	引 事	業種別	連宮	告法_	進行管理
11 教育用コンピュータの更新			年						
01			年						
02			年						
03			 年						
04			年 <i>:</i>						
05			年						
関連課		1							
基本目標 1 生涯を通じて	学び育つまち	5 施策	区分	3	学校教	女育	事業	番号	8
2.事業の概要	r+=1 ==441	- 4- 1 > -	·_ -						
事 教育用コンピュータの更新 内 容	かを計画的に	こ行いま	. 9 .						
根拠法令 条例									
要綱等									
3.成果指標	- * - * +	7							
成児童生徒の情報活用能力果 目標]育成を図る	5 .							
4.活動指標					つかと	드라麻			
Plan【計画】 平成27年	度(現況)	平成	28年月	E		<u>F計画</u> 9年度		平成	
教育用コンピ <u>ー</u> 事業内容 事業量等	力	ī左 [☑] 成24年度 ^{遙備} 羽村ఔ 、、三中	導入校 <i>₫</i> , 西・栄・武	。	24年度導 古・栄・武 25年度導 羽村東 小作台小、	♪入校の更ま ☆蔵野小、三 ♪入校の更ま ・富士見・柗 、一中・二中	新 平成公 羽木	25年度導	享入校の更新 見・松林・小作
5.投入指標(成果の達成、及 ①人件費 【事務執行に要する						・カネ】)			
	平成27年度			<u> </u>		ヹ成29年	度	平原	
職層•職種別		算時間	人数	概算時				人数	概算時間
係長職	0人	0 H	1人	480			84 H	1人	384 H
主事·主任職	1 人	480 H	0人	0	H 1 /		96 H	1人	96 H
事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度	₹(現況)	平月	成28年度	1	₹成29年	度	平原	戊30年度
事業費		35,446		35,4	46	3	5,446		35,446
人件費(係長職)		1 700		2,3			1,911		1,911
人件費(主任·主事職) 総事業費(合計)		1,728 37,174		37,8	0 3 4	3	327 7,684		327 37,684
国庫支出金		07,171		07,0	0		0		07,001
都支出金		0			0		0		0
受益者負担額		0 25 440		0F 4	0		0		0
その他特定財源 一般会計繰入金		35,446 0		35,4	16 0 0 0				
起債		0			0				0
一般財源(人件費含む) 1,728 2,388									
財源内訳(合計)		1,728 37,174		2,3 37,8			7,684 7,684		37,684 37,684

ア市民56,281人における1人あたりのコストは、イ対象者4448人における1人あたりのコストは、ウ成果物の出来高

8,506 円 のコストは

672 円

※ 対象者: 小中学校児童・生徒

6 実体は用/大ケ中におけて 1 年齢化価!	し F切り 比無の針	Ħ\		
6.実施結果(本年度における、4.活動指標と			·臣 Zīī	一一一
□計画どおり完了 □ 計画を見直し完了			遅延	中断
①活動実績(Plan【計画】及び事中評価にお ※計画を見直し完了、遅延、中断となったり				他したか)
平成28年度において、平成29年度の教育				進備を行っ
一十次20千度に630・C、十次20千度の教育 た。	ョ 加コンヒューメーク	1成品の文利に -	70・C 史初・	干畑でコン
/こ。 検討の結果、平成24年度に導入した教育	カランピューターに	ついては、平成な	9年12月3	1日の賃貸借
期間満了後も1年間は保守を延長して使用				
い、平成30年度と31年度に更新をするよう		<u>гра с с /с/со/</u> (, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
②投入実績				
決算の内訳(単位:円) 予算額(当初		予算額(最終)	<u></u> 決算額	
事業費 35,446,00	00	35,446,000	35,44	5,060 100.0%
7.成果結果				
①活動、投入実績から生じた成果(物)		・ 本/じこいこ仏部	1-+> -+ +	.\
前年度(今までの状況) 授業で効果的に活用することにより、学習	教育用コンピュー	度(どういう状態		
で、 の興味や関心を高め、情報や情報手段				
主体的に活用し、情報活用能力の向上へと				
工体的に治用し、情報治用能力の同工へとつながった。		X/D/11/18/21/07 [F] =	L' \C J/&	13. 7120
②4.活動指標のPlan【計画】において、目標		(担合		
<u>②4.冶動指標のFlant</u> に同画加速350.で、日標 対象者(物)	本年度:目標		太丘	叓:実績値
73.4 日(18)/	一 一		7T'-T'	文: 入假旧
		⇒		
Check【評価】	◎・・・適切である		果的に改	善するもの
8.評価	〇・・・適切なもの			
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点)	〇・・・適切なもの	、今後、改善が』	必要なもの	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント	○・・・適切なもの○ △・・・課題があり	、今後、改善が 項目の着	必要なもの	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ͡ଛ ・上位施策(基本目標・施策)を達成する	○・・・適切なもの○ △・・・課題がありる為に必要な事業か	、今後、改善が 項目の着	必要なもの 眼点	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成する 当 要 ・今の社会情勢に見合う事業内容とな	○・・・適切なもの○ △・・・課題がありる為に必要な事業かなっているか	、今後、改善が 項目の着	込要なもの 眼点 びつくか、	
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ŵ ・上位施策(基本目標・施策)を達成する 当 要 ・今の社会情勢に見合う事業内容とな	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 ・上位施策(基本目標・施策)を達成す・今の社会情勢に見合う事業内容と性 ・利用者・対象者のニーズ(需要)は数 (上 活動手法を見直し、人件費・事業費の	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか	、今後、改善が項目の着施策体系に結事業の必要性	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 ・上位施策(基本目標・施策)を達成す・今の社会情勢に見合う事業内容と性 ・利用者・対象者のニーズ(需要)は数 (上 活動手法を見直し、人件費・事業費の	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさす 経費・労力で事	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが 性 世 ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあ 効 (手 法 本 注 と ・活動手法を見直し、人件費・事業費の	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが 性 世 ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあ 効 (手 法 本 注 と ・活動手法を見直し、人件費・事業費の	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが 性 世 ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあ 効 (手 法 本 注 と ・活動手法を見直し、人件費・事業費の	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 ・上位施策(基本目標・施策)を達成す。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあ 効 (手法) 本 (本 ・	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか の削減余地はないか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す・今の社会情勢に見合う事業内容とができます。 ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあ効率 きままを見直し、人件費・事業費のでは、 ・事業の目標が達成されているかの、 ・事業の目標が達成されているかのでででででででででででである。	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか の削減余地はないか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあ 効 年 ・活動手法を見直し、人件費・事業費の 本性 ② ・事業の目標が達成されているか ②事業評価(今後の方向性についての視点	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか の削減余地はないか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課長評価
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 ・上位施策(基本目標・施策)を達成す・今の社会情勢に見合う事業内容とが・利用者・対象者のニーズ(需要)は数率性 の・活動手法を見直し、人件費・事業費の本性 有(成果 ・事業の目標が達成されているか 対別 ・事業の目標が達成されているか と ・事業の目標が達成されているか	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業か なっているか あるか の削減余地はないか	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結事業の必要性 成費・労力で事 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	今後の
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 (○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業かなっているか あるか の削減余地はないか ②当性・有効性〕 ジニ事業を進めること に改善して進めること	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	今後の
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す・今の社会情勢に見合う事業内容とができる。 ・利用者・対象者のニーズ(需要)はある。 ・活動手法を見直し、人件費・事業費の事業では、・事業の目標が達成されているかのでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業かなっているかあるかの削減余地はないか いまるからの削減余地はないか に事業を進めることに改善して進めること し見直しの検討	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	今後の
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 (○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業かなっているかあるかの削減余地はないか いまるからの削減余地はないか に事業を進めることに改善して進めること し見直しの検討	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	今後の
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 ジャー・上位施策(基本目標・施策)を達成する。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが、・利用者・対象者のニーズ(需要)はある。 ・活動手法を見直し、人件費・事業費のでは、人件費・事業の目標が達成されているかが、要との方向性についての視点である。 ②事業評価(今後の方向性についての視点である。) 【今後の方向性】 ②事業評価(今後の方向性についての視点である。) 【今後の方向性】 ⑥:事業の進め方の A:計画どおり、より効果的で、より効果的で、事業の技本的見直し、休止・廃し、	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業かなっているかあるかの削減余地はないか いまるからの削減余地はないか に事業を進めることに改善して進めること し見直しの検討	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	今後の
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 評価のポイント 妥 ② ・上位施策(基本目標・施策)を達成す・今の社会情勢に見合う事業内容とができる。 ・利用者・対象者のニーズ(需要)はある。 ・活動手法を見直し、人件費・事業費の事業では、・事業の目標が達成されているかのでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業かなっているかあるかの削減余地はないか いまるからの削減余地はないか に事業を進めることに改善して進めること し見直しの検討	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	今後の
8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 項目 ジャー・上位施策(基本目標・施策)を達成する。 ・今の社会情勢に見合う事業内容とが、・利用者・対象者のニーズ(需要)はある。 ・活動手法を見直し、人件費・事業費のでは、人件費・事業の目標が達成されているかが、要との方向性についての視点である。 ②事業評価(今後の方向性についての視点である。) 【今後の方向性】 ②事業評価(今後の方向性についての視点である。) 【今後の方向性】 ⑥:事業の進め方の A:計画どおり、より効果的で、より効果的で、事業の技本的見直し、休止・廃し、	○・・・適切なもの) △・・・課題があり る為に必要な事業かなっているかあるかの削減余地はないか いまるからの削減余地はないか に事業を進めることに改善して進めること し見直しの検討	、今後、改善が 項目の着 施策体系に結 事業の必要性 成果を落とさず 行されているか 成果又は効果 いるか	必要なもの 眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	今後の

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

パソコン機器をより広くより効果的に授業で活用し、児童生徒の情報活用能力をの育成を図る。 平成30年度に計画を変更した平成24年度導入校の教育用コンピューターの更新等について、平成29年度に検討し、ICT整備計画を策定することにより計画的に実施していく。

平成28年度 【基	基本シート】										
1.基本項目				部署			E学習				学校教育課
	事業名		開始	往度	実施		事業		運営手		進行管理
12 学校図書館総合管	萱理システム 0	D拡大	平成	26 年	長期総画終了		自治事 独自)	務(巾 耒 部	:務委託(슄 ()	Ē	\bigcirc
01				 年	1				·		
02				— ————							
03				年							
04				年							
05				年							
	\$ ⇔										
		4 7° ★ △ 1	-+ +- hh			.11	4 1 1 1/ 1 7	<u>.</u>	+ ***	<u> </u>	^
	涯を通じて	ざい育つま	ち 施策	区分	3	子	校教育	1	事業番	5	9
2.事業の概要	本事体での	雨マルナ	+# *# +	-+-							
事 学校図書館の *	威書官埋 0.	電力化を	推進しま	9 0							
内											
根拠法令											
条例											
要綱等											
3.成果指標	11-114 a 41 +	- 11 42-11		= +	<u> </u>	bo TI	<u> </u>	1 4. 11	++- ==- +	- I-	1 h. 18
成学校図書貸出 思ることにより						-処埋7	が容易	となり	、咸書生	を (備)	につなが
目	、ナともの	が一番機会	の同上で	z図る。	0						
標 4.活動指標											
	T-150-1-1	÷ /== \= \				(3か年	計画			
Plan【計画】	平成27年月	艾(現況)		太28年			7成29		平	成:	30年度
	学校図書館総の更新・導入に						羽村西•富 •中学校3	士見·小			
	準備 羽村東小	トをモデル校	蔵野小	八 木 仏	777 - 正(1F 🗆 🗥	- 中子放。	TX.			
	として試験導入										
事業内容			学校図書館		里システム		羽村東・栄	・松林・武	同左 小	中学	校10校
事業量等			の運用 羽	村 東小		蔵野小					
	旧学校図書館			西・富士!	見∙小作						
	テムの運用 羽ネ 見・小作台小	以四·邑工	台小								
5. 机 1. 比描/代用		バエ乱士	7+.161-1	加工士	フ次に	7	T / -	5 - 5 1 1			
5.投入指標(成果) ①人件費 【事務	の達成、及 執行に要す							141)			
			度(現況)		成28年			戊29年度	Ŧ,	平瓦	t30年度
職層∙職種	里別		現算時間	人数	概算		人数	概算時			概算時間
係長職		1人	20 H		1	00 H	1人			人	10 H
主事・主任職		1人	100 H	0人		0 H	1人	180) H 1	人	18 H
②総事業費 事業費の内訳(j	当位·千田)	平成27年	度(現況)	亚	成28年	使	亚F	戊29年 度	Ŧ I	亚丘	t30年度
事業費	<u> 中 17. 1/</u>	1 190,21	4,190		火20十	9,278			858	1 12	2,694
人件費(係長職			101			498		•	50		50
人件費(主任・	主事職)		360			0			612		62
総事業費(合計) 国庫支出金		<u> </u>	4,651 0			9,776		18,	520		2,806
国熚又田並 都支出金		+	0			0			0		0
受益者負担額			0			0			0		0
その他特定財			0			0			0		0
一般会計繰入	金		0			0		-	0		0
起債	↓ # △ + . \	1	0			0 770		- 10	0		0 000
一般財源(人作 財源内訳(合計)	+負召む)	 	4,651 4,651			9,776 9,776			520 520		2,806 2,806
③コスト計算		<u>i </u>	7,001			3,770	<u> </u>	10,	المحد		2,000
ア市民	56,281 人	における	1人あたり	りのコス	ストは、			174	刊円		
イ対象者		における	-					2,198			
ウ成果物	σ_{z})出来高					<u>の</u> :	コストは			円

 1 対象者
 4448 人にあげる

 ウ 成果物
 の 出来高

 ※ 対象者: 小中学校の児童・生徒数

Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、	を見直し完了(2 事中評価におけ	欠年度以降計画を ける改善について本	見直す 年度	どのよ <u>うな</u>		 中断 施したか)		
小学校3校(栄小、松林小、武						開始した。		
②投入実績			7 /c. h.	=/ EI 4/b\	`+	·		
決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)			(最終)	決算額			
事業費	9,278,000	▲ 4,854,000	4	1,424,000	3,88	84,328 87.8%		
7.成果結果 ①活動、投入実績から生じた	式甲(物)							
前年度(今までのり		今 年	使(どう	いう状能	になったか	<u>v)</u>		
学校図書館総合管理システム		学小、松林小、武						
羽村東小のみであった。その		ベース化を行い、						
状況としては、旧学校図書館		た。			16477	ノムとサバし		
テムが羽村西小、富士見小、		7-0						
入されているが、栄小、松林小								
はシステムが導入されていな								
②4 泛動比博のロップ計画7/2	・おいて、ロ挿は	ちた粉はルレデンス	1日人					
②4.活動指標のPlan【計画】に 対象者(物)	- おいて、日信値	<u>■を剱旭化している</u> 本年度:目標ſ		ľ		变:実績値		
			旦	i	本 牛/			
新システムの運		4校		⇒		4校		
旧システムの運	用	3校				3校		
				,				
Check【評価】		◎・・・適切であるが	が、今行	後、より対	果的に改	善するもの		
8.評価		〇・・・適切なもの						
①事業評価(改善等、課題を多		△・・・課題があり、						
	価のポイント		J	項目の着	眼点	課長評価		
妥 🖟 上位施策(基本目標・旅	・策)を達成する	為に必要な事業か	施等化	本系に結	バつくか			
当要・今の社会情勢に見合う	事業内容となっ	っているか		かい要性				
性 ~ ・利用石・対象石の――								
効 (・活動手法を見直し、人 率 法 性)	件費・事業費の	削減余地はないか						
平 法				労力で事				
性~			行され	こているか	١			
有 (事業の目標が達成され	1ているか		成果?	又は効果	が表れて			
有 (・事業の目標が達成され 効 _果 性 ()			いるか		70 IZ110 C			
②事業評価(今後の方向性に		1/ 14L 1 14L >				A // 6		
【今後の方向性】	一善局【妥닄	当性•有効性〕				今後の		
5 + # 6 # 4 + 6	 	- 			ſ	方向性		
		事業を進めること						
低改善の検討		:改善して進めるこ	とか週		h 455 NH 기	A		
← C:事業規模・内容又				—] ^{→ [%}	か率性〕	Δ		
D:事業の抜本的見直	<u>!し、14 止 " 発止</u> 	の作品				/ \		
	↓ 低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

平成29年度において、旧学校図書館総合管理システムを導入している小学校3校(羽村西小、富士見小、小作台小)について、蔵書のデータベース化作業を行うとともに新システムへの更新を行う。中学校への導入及び小中学校における学校図書館システムのネットワークの確立に向けた取組みを引続き推進していく。

平成28年度 【基	基本シート】										
1.基本項目	_ , , , , , _			部署			E学習				学校教育課
	事業名			年度	実施	期間	事業自治事	致/士		手法	進行管理
13 学校図書館司書(の充実		平成	18 年	継続		独自)	· (11) 代化	直営		
01				年							
02				 年							
03				年			 				
04				年							
05				年							
関連課											
基本目標 1 生	涯を通じて覚	 ⊉び育つ	まち 施策	区分	3	学	校教	育	事業	番号	15
2.事業の概要			1								
事学校図書館司	書教諭の職	務を補助	助し、学校	図書館	の整備	抗定	を図る	ため、	学校[図書館	司書を配置
業し、子どもの読	書活動の一	層の充	実を図りま	す。							
容											
根拠法令											
条例 要綱等 羽村	市立学校図	建 船司 :	生記器更紹	7							
3.成果指標	<u> 四次十次四</u>	自印刊百	可以但女仆	<u>"J</u>							
成各学校におけ	る読書活動	の充実	を図るとる	ともに	、図書	館との	の連携	、新し	い図	書管理	システム
果のスムーズな	導入を図る	0									
標											
4.活動指標							. I. /- .	=1			
Plan【計画】	平成27年月	度(現況)) <u> </u>	戊28年 月	在		3か年 ² 成29			亚战	30年度
	各小中学校に対	学校図書館	同左		Σ	同左			同名	Ē	
市业中岛	司書を配置 1日4時間 週4	A	1日4時間	日4時間 週4日 1日				3	1日	4時間 週	4日
事業内容 事業量等		_									
中 不至寸											
E 抗 1 比描/式 田		パエ乱せ	- z + - 1 - 1 - 1	加工士	2 次に	!	т. /	+ → 1 \			
5.投入指標(成果 ①人件費 【事務	の達成、及の							リイト』)			
			<u> </u>		或28年			或29年	度	平原	t30年度
職層∙職種	生力!	人数	概算時間	人数	概算		人数	概算		人数	概算時間
係長職		1人	80 H			80 H	1人	8	30 H	1人	80 H
主事·主任職 ②総事業費		0人	0 H	0人		0 H	0人		0 H	0 人	0 H
事業費の内訳(単位·千円)	平成27:	年度(現況)	平		度	平	或29年	度	平原	t30年度
事業費			5,868			5,980			5,980		5,980
人件費(係長期			404			398			398		398
人件費(主任・	主事職)		0.70			0			0		0
総事業費(合計) 国庫支出金			6,272 0			6,378 0			3,378 0		6,378 0
都支出金			0			0			0		0
受益者負担額			0			0			0		0
その他特定財			0			0			0		0
一般会計繰入 起債	. 董		0			0			0		0
起復 一般財源(人作	生費会は:)		6,272			6,378			0 6,378		6,378
財源内訳(合計)	- X L U /		6,272			6,378			6,378		6,378
③コスト計算							-				•
ア市民			る1人あた						13 円		
イ 対象者			51人あた	りのコス	ストは、				34 円		
ウ 成果物	1.0	出来語	- 1				മ	コストに	t II		円

※ 対象者: 小中学校の児童・生徒

①活動実績(Plan【計画】 ※計画を見直し完了、遅	ける、4.活動指標と、 計画を見直し完了(次 及び事中評価におけ 延、中断となった場1	欠年度以降計画で ける改善について 合は、理由、内容	を見直す) [[本年度どのよう などを記入する	らこと。	□ 中断 施したか)
学校図書館の環境整備	· 充実を凶るため、子	·校凶書館可書を	〒小中字校へ 1名	4郎直した。 		
②投入実績 (単位・円)	予算額(当初)	「建工」:太田始丁	ヱ質妬/具奴\	1 油質	·5	生物
決算の内訳(単位:円)		補正•流用額	予算額(最終) 5,000,00	決算額		1行率
事業費	5,980,000		5,980,00	0 5,91	7,386	99.0%
7.成果結果	- '° ┴ ── / ┴── /					
①活動、投入実績から生		T	ケ 幸/じこいこ小:	<u> </u>	. \	
前年度(今まで			年度(どういう状)			L ∧ ≣±
学校図書館司書を各校1		引き続き、学校に				
市立図書館との連携や親 ムのスムーズな導入が促 読書環境の充実が図れた。	足進され、子どもの	書環境を充溢す名配置した。	るにめ、子牧凶	書郎可書で	小中子的	ز^ ا
②4.活動指標のPlan【計i	画】において、目標値	を数値化してい	る場合			
対象者(本年度:目標		本年	度:実績信	直
			⇒			
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、課)	題を発見する視点)	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり	D			の
項目	評価のポイント		項目の		課長訓	平価
妥 ② •上位施策(基本目)	標・施策)を達成する	 為に必要な事業:	41			
当豪・今の社会情勢に	見合う事業内容となっ		一 ルス やホー		()
)ニーズ(需要)はある		──事業の必要忖	生ほめるか		′
	、人件費・事業費の		か成果を落とさ	ず. 最少の		
<u> </u>	<u>AAHA TAA~;</u>	<u> </u>	経費・労力で)
<u> </u>			行されている			/
		_				
有 (・事業の目標が達) 効 果 性 ()	火に有りているが		一成果又は効!	果が表れて)
件			─ いるか			<i>'</i>
<u> </u>	性についての視占)		i			
で事業計画であり方向 【今後の方向性】		当性·有効性〕			今後	M
		コけいりかいてい			方向	
B:事業の進め方		事業を進めるこ	トロナ		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	12
低 改善の検討		- 争未を進めるこ : 改善して進める		高		
	容又は実施主体の見			ョ 効率性〕	A	
	4000000000000000000000000000000000000			(TI — (X)		
ロ・サネッルケート	<u> </u>					•
	* 低					
A -+:[コb.羊】						
Action【改善】	지르며 BT 나 수 사사					
評価から導かれる今後の) 課題と方向性					
評価(所管課長)	***	. u		 	31 -1.1	
今後も学校図書館の環境	見整備・充実を図る <i>た</i>	こめ、字校凶書館	3可書を小中字R 1	交へ1名配置	していく	0

	28年度		【基	本シート】					.1 .=	- 117	L_1			W 11 40 4	
1.基	本項目		-	事業名			部署 <u></u> 年度	宇施	生涯 期間	を受習 である ままま とうしゅう まんしょう とうしゅう まんし おいし まんし おいし おいし といっと おいし まんし おいし しゅう はい しゅう かいし しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう かいしゅう しゅう しゅう はいしょう はい		運営手		学校教育 進行管:	
14 学	法士 授	tuh tati		サ 未 ロ 『の運営		平成		継続		自治事			- <u>/</u>	進11日	生
14 +	区义坛	吧坝	半口			十八				独自)	쁘	<u> </u>			
01							— 年								
02							年								
03							年								
04							 年								
05							 年								
	 連課	仕	汪亡	学習総務課											
	= 杯 :目標	1		上自心物味 涯を通じて学	が至つま	ナ 佐竿	医分	3	<u> </u>		5 .	事業番	- -	10	
	・ロ1伝 業の概	<u> </u>	土	圧で囲して子	-ひ月 フォ	り一心束	上方	ა	-1	- 1文字() 目		尹未任	17	10	
			ناح	学校を支援	そ する組織	強をつくり	、学校	• 地域 •	家庭。	との連キ	集を推進	 しまで	于 。		
内	. 1242				~, 5,12,1	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					,, ,,,,,				
容 根拠	法令	I													
条例															
要綱															
3.成员			た:		イレレ±	.1 学は	かた核	レーア	' ₩ +武 -	7 2 7 .	- ティ	の活州	ヒルが	図わるな	
果 制	を整備				\	11C (1 1,	X C 1X		- 10-24		- / 1 (// II	_ _ //		r
<u>標</u> 4.活動	動指標	<u> </u>													
	an【計			平成27年度	(現況)					3か年計					
	AII E E I			学校支援地域本		平	太28年 原			[∡] 成29年		同左		30年度	
				子校文版地域本 員会の準備	、叩连古女	会の設置・道				運営 1回	叩连舌女	四在	I EI		
	業内			中学校区ごとの 域本部の運営		同左 1回			同左 1	回		同左	1回		
事	業量	等		学校支援地域本		同士 1↓			同左 1	1		同左	1 I		
				ネーターの配置		问在「八			问在「	^		川在	17		
				の達成、及び							ネ】	1			
①人	件費	【事	務	執行に要す		<u>1人当た</u> 度(現況)		<u>間業務</u> 或28年			29年度	F I	₩ =	以30年度	
	職	層•	敞種	重別		(現成) (算時間	人数		· <u>皮</u> ·時間		概算時		人数	概算時 	間
係長					1人	80 H		.,,,,,	80 H	1人		Н	1人	80	Н
	主任				0人	0 H	0人		0 H	0 人	0	Н	0 人	0	Н
	事業費 費の内		(È	単位:千円)	平成27年	度(現況)	平」	或28年	度	平成	29年度	F	平瓦	以30年度	
事	業費					800		,, ,	816			816	,	8	316
	件費(404			398		;	398		3	398
総事				主事職)		1,204			0 1, 214		1.3	0 214		1.2	0 214
玉	庫支出	出金				0			0			0			0
	支出金		安吾			394			394		;	394		3	394
	益者1 の他物			原		0			0			0			0
	その他特定財源 一般会計繰入金			0			0			0			0		
起		压 /	<u> </u>	- 弗 🏊 + 、 \		010			0			0			0
財源				+費含む)		810 1,204			820 1,214			820 214			320 214
37			_			1,207				<u> </u>		<u>- · · · · </u>		1,2	<u></u>
ア市				56,281 人		-						円			
イ対						1人あた ^し	りのコス	ストは、				円			il
ウ 成 ※ 対		小	中章]の 学校の児童・	出来高 ·生徒					<i>(</i>)=	コストは	<u> </u>			円

Do() (臭行) 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、 <u>レ</u> 計画どおり完了 計画を ①活動実績(Plan(計画)及び ※計画を見直し完了、遅延、中	を見直し完了(2 事中評価におけ	欠年度以降計画を ける改善について	:見直す 本年度と	このような		 中間 施したか	
ー・二・三中校区全ての学校に 体制の充実を図った。						材を活力	かせる
②投入実績	▽ ៚☆ (\\\ +n\	*************************************	▽ ⁄∽ /∽	/ 日 	法	安 1.	±4 47 3/2
決算の内訳(単位:円) 事業費	予算額(当初)	補正•流用額	予算額		決算額		<u>執行率</u>
	816,000			816,000	01	6,000	100.0%
プススススートーネー ①活動、投入実績から生じた♬	式果(物)						
前年度(今までの状		今年	度(どう	いう状態	になったカ	١)	
学校・地域を取巻く国の制度(引続き、市教育委					三部
ル、地域学校協動本部)が流動	かがあるた	コーディネーター	、学習=	ーディネ	ーターとの	情報共	有化
め、学校支援地域本部連絡協		を図るための運営	営委員会	きま開催し	た。		
を見直し、市教育委員会事務							
援地域本部コーディネーター、							
ネーターとの情報共有化を図れ	るための連宮						
委員会を開催した。							
②4.活動指標のPlan【計画】に	おいて、目標値	を数値化している	5場合				
対象者(物)		本年度:目標	値		本年	隻∶実績	値
				\Rightarrow			
Check(評価) 8.評価		◎・・・適切である ○・・・適切なもの)				もの
①事業評価(改善等、課題を発		△・・・課題があり					=== /==
	価のポイント	* I- > = 1- = * I		頁目の着	眼点	謀長	<u>:評価</u>
妥 ☆ ・上位施策(基本目標・施			施策位	本系に結び	びつくか、		\neg
妥 (ଛ ·上位施策(基本目標・施 当 要 ·今の社会情勢に見合う 性 ·利用者・対象者のニー			−事業の	D必要性	はあるか		ノ
効 ♀ ・活動手法を見直し、人作			、成里を	こ抜レさず	・是小の		
別 _手	十頁・尹未良の	門派示心はないの		」 労力で事		(
効 (* :活動手法を見直し、人作率 法 性)				カカ c す しているか			ノ
<u>- </u>	こているか						
カ 成 サ 木 い 口 (水) 	000 013			スは効果	が表れて)
有 (** 事業の目標が達成され 効 果 性 ()			一いるか	`			
②事業評価(今後の方向性に	ついての視点)		•				
【今後の方向性】		当性•有効性〕					後の
	1					方[<u> </u>
		事業を進めること					
低改善の検討		改善して進めるこ	とが適:				_
← C:事業規模·内容又(→ 〔 蛟]		\
D:事業の抜本的見直	し、休止・廃止	の検討					1
	↓ 低						
	迅						

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性 評価(所管課長) 学校・地域を取巻く国の制度(コミュニティ・スクール、地域学校協動本部)が流動的であるため、動向を注視し ながら今後も体制整備を検討していく。

平	成28年度	F	【基本シート】					
1.	基本項目	_		作成部署	生涯	!	学校教育課	
			事業名	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
15	小中学校	部活	動の充実	不明 年				
	01			年				
	02			年				
	03			年				
	04			年				
	05			年				
	関連課							
砉	本目標	1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	3 共	生社会	事業番号	23

2.事業の概要

事 小中学校の部活動への支援をします。

業(大会参加費及び交通費の保護者への補助、大会参加に係る楽器運搬自動車借上、外部指導員の内配案) 配置) 容

根拠法令

条例 要綱等 羽村市立小学校課外クラブ活動指導員設置要綱、羽村市立中学校部活動外部指導員設置要綱

3.成果指標

|成||次代を担う児童生徒の心豊かで健やかな成長

果 |保護者負担軽減、部活動指導の充実、指導者不足に伴う休廃部解消、教員の校務改善 目

標

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画								
	十八27十尺(坑八)	平成28年度	平成29年度	平成30年度						
事業内容 事業量等	【小学校】 金管バンド部の大会参加費・交通費補助 楽器運搬用自動車借上 【中学校】 スポーツ・文化活動部の大会参加費・交通費補助 吹奏楽部の大会参加に係る楽器運搬用自動車借上 部活動外部指導員の配置	同左	同左	同左						

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

(1)人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層∙職種別	平成2	7年度(現況)	平月	戊28年度	平月	成29年度	平成30年度		
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	
係長職	0人	0 H	0人	0 H	0人	0 H	0 人	0 H	
主事·主任職	2 人	368 H	2 人	368 H	2 人	368 H	2 人	368 H	

(2)総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	13,156	16,015	16,015	16,015
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	2,649	2,502	2,502	2,502
総事業費(合計)	15,805	18,517	18,517	18,517
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	15,805	18,517	18,517	18,517
財源内訳(合計)	15,805	18,517	18,517	18,517

③コスト計算

56,281人における1人あたりのコストは、 ア市民 イ 対象者 4448 人における1人あたりのコストは、 ウ 成果物 の 出来高

329	円
4,163	円
のコストは	円

※ 対象者: 小中学校の児童・生徒

Do(実行) 【進行管理】 6.実施結果(本年度における:				ᅝᇎᇎ	
レ計画どおり完了 □ 計画 ①活動実績(Plan【計画】及び ※計画を見直し完了、遅延、	事中評価におけ 中断となった場合	ける改善についてz 合は、理由、内容が	ト年度どのような などを記入するこ	活動を実施と。	
大会参加費及び交通費の保 部活動への支援を行った。 小中学校の課外クラブ・部活動の充実を図った。					
②投入実績	→ ## ##/\/\ +n\		マ # か (目 46)	'	E ++ /= ===
決算の内訳(単位:円) 事業費	予算額(当初) 16,015,000	補正·流用額 ▲ 30,000	予算額(最終) 15,985,000	決算 額	類 執行率 9,463 80.4%
7.成果結果	•	₹ 00,000	10,000,000	12,07	00.470
①活動、投入実績から生じた 前年度(今までのも		□ △ 左	度(どういう状態	1=+:-+	\ \
大会参加費に係る保護者へ(引続き、大会参加			
運搬自動車の借上げや外部による支援を行い部活動等のた。	指導員の配置)充実が図られ	動車の借上げやが 活動等の充実が	外部指導員の配 図られた。		
②4.活動指標のPlan【計画】に	おいて、目標値			+ 7-5	去 中 (ま)ま
対象者(物)		本年度:目標		本年	度∶実績値
			⇒		
Check【評価】 8.評価		◎・・・適切である	が、今後、より対	果的に改	善するもの
	発見する視点)	〇・・・適切なもの	、今後、改善が』	必要なもの	
①事業評価(改善等、課題を	発見する視点) 価のポイント		、今後、改善が 項目の着		
①事業評価(改善等、課題を 項目 評 妥 û ・上位施策(基本目標・別 当 要 ・今の社会情勢に見合 性 ・利用者・対象者のニー	価のポイント 主策)を達成する、 う事業内容となっ ズ(需要)はある	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか	項目の着施策体系に結 事業の必要性	眼点 びつくか、 はあるか	
①事業評価(改善等、課題を 項目 妥 ・上位施策(基本目標・放 ・今の社会情勢に見合 性 ・利用者・対象者のニー 効 ・活動手法を見直し、人 率 法	価のポイント ・一年(できまがする) ・一年(では、 ・一年でである。 ・一年では、	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか	項目の着施策体系に結 事業の必要性	眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 、 き が 執	
①事業評価(改善等、課題を 項目 妥 ・上位施策(基本目標・放 ・今の社会情勢に見合 ・利用者・対象者のニー 効率 性 ・活動手法を見直し、人 率性 ・事業の目標が達成さ	価のポイント ・一年(できまがする) ・一年(では、 ・一年でである。 ・一年では、	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか	項目の着施策体系に結事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事	眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
①事業評価(改善等、課題を 項目 妥 ・上位施策(基本目標・放 ・今の社会情勢に見合・利用者・対象者のニー ・活動手法を見直し、人 ・事業の目標が達成され でする。 ・事業の目標が達成され でする。 ・事業の目標が達成され でする。	価のポイント ・一年でではなる。 ・一年でではある。 ・一年でではある。 ・一年ででは、 ・一年ででは、 ・一年ででは、 ・一年ででは、 ・一年ででは、 ・一年では、 ・一をは、	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか 削減余地はないか	項目の着施策体系に結事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力で事 行されているか 成果又は効果	眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	課長評価
①事業評価(改善等、課題を 項目 妥 ・上位施策(基本目標・が ・今の社会情勢に見合・ ・利用者・対象者のニー 効率性 ・活動手法を見直し、人 ・事業の目標が達成され が果 ・事業の目標が達成され でする。 (本)	価のポイント ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているかるか 削減余地はないか 当性・有効性〕	項目の着施策体系に結事業の必要性 成果を落とさず 経費・労力です 行されているか 成果又は効果 いるか	眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
①事業評価(改善等、課題を 項目 妥 ・上位施策(基本目標・放 ・今の社会情勢に見合・利用者・対象者のニー ・活動手法を見直し、人 ・声法 ・事業の目標が達成され で、事業の目標が達成され で、事業ではできる。	価のポイント 一年ではなる。 一年では、一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一でいるか 一でいるか 一でいるが、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか 削減余地はないか 当性・有効性〕 事業を進めること 改善して進めること 記直しの検討	項目の着 施策体系要 成果を落力でいる が異なれている がよれている は適当 によが過	眼点 びつくか、 はあるか 、最少の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今後の
①事業評価(改善等、課題を 項目 ・上位施策(基本目標・放・今の社会情勢に見合・利用者・対象者のニー・活動手法を見直し、人・活動手法を見直し、人・事業の目標が達成されて、「今後の方向性に 【今後の方向性】 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又	価のポイント 一年ではなる。 一年では、一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一年では、 一でいるか 一でいるか 一でいるが、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか 削減余地はないか 当性・有効性〕 事業を進めること 改善して進めること 記直しの検討	項目の着 施策体系要 成果を落力でいる が異なれている がよれている は適当 によが過	眼点 びつくか、 はあるか 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	今後の

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

今後も大会参加費に係る保護者への補助、楽器運搬自動車の借上げや外部指導員の配置による支援 を行い部活動等の活性化を図っていく。

平成28年度 【	基本シート】										
1.基本項目					部署			家庭部	1 100 11		育て支援課
	事業名	住 懇談会。	の渾		年度	実施	期間	事業種別	連足	生法_	進行管理
	小十次连汤证	医恋吸去	沙连	平成	18 年	継続		自治事務	直営		
01					 年						
02					 年				 		
03									 		
				ļ	年 						
04					年				_		
05					年						
関連課 学校	教育課										
基本目標 1 生	- 涯を通じて 学	ዸび育つ	まち	施策	区分	3	学	校教育	事業	番号	21
2.事業の概要											
事幼稚園、保育業はあることは											
	稚園、保育園	と小学	校の	交流機	会の位	足進なる	ど、つ	ながりを意	識したえ	対応に	取り組みま
根拠法令 条例											
	市幼稚園・伢	₽育園•	小学	校連携	推進系	退談会 9	要綱				
3.成果指標											
成平成28年度、	就学前プロ	グラム	、就	学前た	リキ	ュラム	策定。				
		÷ /+0 \0	<u>, </u>				- (3か年計画			
Plan【計画】	平成27年月				28年月	\sim	•	成29年度			30年度
	幼稚園·保育園 携推進懇談会			左 淡会1回	部会4回		同左 懇談会	1回 部会4回	同之	5 炎会1回 名	85会4回
	乃正是心跃五	12	AEV II	хдіш	прдты		心跃五	е врдае	NEX E	X	РДТШ
	相互理解促進の	のための情	相2	互理解促	進のため	の情報	同左		同之	Ē	
事業内容	報交換		交担	奐、事業の	の実施						
事業量等											
5.投入指標(成果)		
①人件費 【事	外執行に要す										Baa - -
職層∙職	種別	平成27		(現況) 時間	人数	或28年 ┃ 概算□		平成29 ² 人数 概算	<u>‡度</u> [時間	人数 人数	成30年度 概算時間
係長職		1人	194.开	10 H	1人		<u>ਬਜ਼ਾਸ਼</u> 20 H		20 H	1人	100.异时间 20 H
主事·主任職		0人		0 H	0人		0 H	0人	0 H	0人	0 H
②総事業費		I = -		/TO 10 \			_	T - 1- 0.0 A			b - -
事業費の内訳 (事業費	(单位:千円)	平成27	年度((<u>現況)</u> 15	半月	<u> </u>	<u>度</u> 15	平成29年	<u>丰度</u> 25	半月	<u>战30年度</u> 25
人件費(係長)	歆)			51			100		100		100
人件費(主任:				0			0		0		0
総事業費(合計)				66			115		125		125
国庫支出金				0			0		0		0
都支出金 受益者負担額				0			0		0		0
その他特定則		0			0		0		0		
一般会計繰力		0			0		0		0		
起債	# 弗会+ベ			0			115		125		125
一般財源(人) 財源内訳(合計)	1月日む)			66 66			115 115		125 125		125 125
③コスト計算		1					. 10		. 20		120
ア市民	56,281 人	におけん	る1人	、あた!	りのコス	ストは、			2 円		
イ 対象者		におけ		<u>、あ</u> たり	Jのコス	ストは、			円円		
ウ成果物	の	出来活	高					のコスト	は		円
※ 対象者:											

Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、 計画どおり完了 レ 計画を見直し完了(2 ①活動実績(Plan【計画】及び事中評価におけ ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場	欠年度以降計画を ける改善について本 合は、理由、内容な	見直す) 年度ど <u>などを記</u>	のような 入するこ	活動を実 と。))
小学校教師、幼稚園教諭、保育士で構成さけた意見提言を行った。また、交流事業としる市内保育園(私立まつぼっくり保育園)の移のき学級)の見学を行った。 当初計画では、部会を4回開催する予定だことから開催を3回とした。なお、懇談会委員	て、支援が必要な園 観察及び、市内小学 ったが、交流事業後	園児に対 単校の特 後に意見	けし先進的 別支援 見交換の	内な取り組 教室(羽村 場を設ける	みを行 [.] 西小学	ってい 校くす
②投入実績		→ <i>b</i> b åT /	(B.6)	_ <i>FF</i> -	- 1-	b1 /= - - -
決算の内訳(単位:円) 予算額(当初)		予算額(<u> </u>		<u>執行率</u>
事業費	0		15,000		5,000	33.3%
①活動、投入実績から生じた成果(物)						
前年度(今までの状況)	今年	度(どう)	いう状態	になったか	١)	
懇談会を1回開催し、平成28年度活動計画 を決定した。	平成28年度活動の輝く未来のためまた、交流事業で 互理解の促進を図	に」改言を通じて	Tに向け 、幼稚園	た意見提記・小学校・	言を行っ	た。
②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値						
対象者(物)	本年度:目標	直		本年	隻∶実績	値
幼稚園·保育園·小学校連携推進懇談会 幼稚園·保育園·小学校連携推進懇談会部 会	1回 4回		⇒	交流	1回 3回 事業 2	
Check【評価】 8.評価 ①事業評価(改善等、課題を発見する視点)	◎・・・適切である。○・・・適切なもの△・・・課題があり。				善する	もの
項目 評価のポイント			目の着		課長	評価
妥 û ·上位施策(基本目標·施策)を達成する 当 要 ·今の社会情勢に見合う事業内容とな 性 ·利用者·対象者のニーズ(需要)はあ	っているか るか	事業の)必要性	びつくか、 はあるか)
効 (・活動手法を見直し、人件費・事業費の 率 法 性)	削減余地はないか	経費·	·落とさず 労力で事 ているか	務が執)
有 (・事業の目標が達成されているか 効 _果 性)		成果又いるか		が表れて	(
②事業評価(今後の方向性についての視点)	1/ h4 + + + h4 >					" •
1	当性・有効性〕		_	ſ		後の 句性
			当高	小率性 〕	F	4
A ation [改革]						

Action【改善】 評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

幼稚園・保育園等から小学校への円滑な接続と相互理解促進のための大切な事業であり、平成28年 度においては、部会、交流事業を通じて一定の成果が得られたものと捉えている。

今後は、この取り組みを継続、充実させていくなかで、幼・保・小の自主的な活動が更に進んで行くよう 働きかけていく。

平成28年度 【基本シート】							
1.基本項目	作成部署	都市	建設 部		建築課		
事業名	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理		
17 学校教育施設の計画的な改修	平成 24 年	継続	自治事務	業務委託(一 部)			
01	年						
02	年			T			
03	年			T			
02 03 04				T			
05	年						
関連課 生涯学習総務課							
基本目標 1 生涯を通じて学び育つまち	施策区分	3 学	校教育	事業番号	22		
2.事業の概要							
学校教育施設の機能維持と延命化を図るため、施設の改修工事を計画的に実施します。							

	<u> </u>											
事業内容	学校教	女育施	設の機	能維持と	延命化を図	図るため、	施設の改	修工事を	計画的に	実施しま	ぎす。	
12.3												
谷												
根	拠法令	ì										
条	:例											
要	綱等						_				_	

3.成果指標

成 老朽化した施設の改修を行うことにより、安全・快適に利用できる環境を整備するとともに 果 施設の延命化を図る。 [目]

4.活動指標

4./百期旧儒		•					
Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画					
	十八八十尺(坑儿)	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
事業内容 事業量等	体育館非構造部材対策工事 羽村西小、羽村東小、栄 小、一中、富士見小、二中 (外壁改修含) 学校トイレ改修工事 I期工事:一中 防音機能復旧工事 羽村西小(設計) 太陽光発電システム(設計) 羽村東小、栄小、二中	大規模改修工事 小作台小 同左 (複数年事業) 富士見小、二中(外壁改修 含) 同左 II 期工事:一中 同左(工事) 羽村西小 学校防水改修工事 栄小 太陽光発電システム(工事) 羽村東小、栄小、二中		同左 松林小 同左 I 期工事: 富士見小、武蔵野小、二中 同左(工事) 一中 外壁・プール改修工事 富士見小			

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

w 展 w 我则	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
職層∙職種別	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	240 H	0 人	240 H	0人	240 H	0 人	240 H
主事·主任職	2 人	480 H	0 人	480 H	0 人	480 H	0 人	480 H

②総事業費

	6 /心尹木貝							
事	業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
	事業費	422,928	567,055	200,117	607,345			
	人件費(係長職)	1,210	0	0	0			
	人件費(主任・主事職)	3,455	0	0	0			
総	事業費(合計)	427,593	567,055	200,117	607,345			
	国庫支出金	137,417	145,742	10,855	242,114			
	都支出金	67,494	80,981	0	0			
	受益者負担額	0	0	0	0			
	その他特定財源	0	0	0	0			
	一般会計繰入金	0	112,947	0	0			
	起債	0	0	0	0			
	一般財源(人件費含む)	222,682	227,385	189,262	365,231			
財	源内訳(合計)	427,593	567,055	200,117	607,345			

③コスト計算

ア 市民 56,281 人における1人あたりのコストは、 <u>56281</u> 人における<u>1人あ</u>たりのコストは、 イ 対象者 の 出来高 ウ 成果物

10,075	171
10,075	円
のコストは	

※ 対象者:

20【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果) ☑計画どおり完了 ☑ 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) ☑ 遅延 ☑ 中断 ①活動実績(Plan【計画】及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか) ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。								
施設の機能維持と延命化を図るため、施設の改修工事を計画的に実施した。 富士見小体育館・二中体育館改修工事(非構造部材対策)(H28.10.3完了) 小作台小学校大規模改修事業(H28.9.30完了) 羽村西小学校防音機能復旧(機器取替)事業(H28.8.31完了) 一中トイレ改修工事(東側系統)(H28.9.30完了)、(体育館)(H29.3.20完了) 栄小屋上防水改修工事(H28.8.31完了)								
決算の内訳(単	②投入実績 中算の内訳(単位:円) 予算額(当初) 補正·流用額 予算額(最終) 決算額 執行率							
事業費 7.成果結果 ①活動、投入実	 績から生じた.	<u>567,055,000</u> 成果(物)	113,243,000	080),298,000	661,21	<mark>7,040</mark> 97.2%	
前年原	度(今までのり	(況)				になったカ		
施設の機能維持と延命化を図るため、施設 老朽化した施設の改修を行うことにより、安全・快適に利力改修工事を計画的に実施した。 用できる環境を整備するとともに施設の延命化を図った。								
	Plan【計画】に 対象者(物)	おいて、目標値	を数値化している 本年度:目標		[本年月	度∶実績値	
\Rightarrow								
Check【評価】 8.評価	· 生 = 10 = 10 = 10 = 10 = 10 = 10 = 10 =	♥ 日→╴フ→□ 上∖	◎・・・適切である ○・・・適切なもの)				
<u>①事業評価(改</u> 割 項目┃		<u>€兄9つ祝品/</u> 価のポイント	△・・・課題があり		<u>、欧善かり</u> 項目の着		課長評価	
妥 (🗴 ・上位施策 当 y ・今の社会 性 ・利用者・3	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業 ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか				本系に結び	0		
効	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか				を落とさず ·労力で事 ıているか	0		
有 ೧ <mark>・事業の目</mark> 効 _果 性)	・事業の目標が達成されているか			- 成果又は効果が表れて - いるか			0	
②事業評価(今後							A (/) =	
【今後の方向性】		1	当性•有効性〕 - 東 ** 4			ſ	今後の 方向性	
低 <u>改善</u> ← C:事業	B:事業の進め方の A:計画どおりに事業を進めること、又は、 改善の検討 より効果的に改善して進めることが適当 高 ← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 → 〔効率性〕 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討 低					Α		
Action【改善】 評価から導かれる今後の課題と方向性								

評価(所管課長) 児童・生徒等が安全快適に学校施設を利用できる環境整備のための改修工事を公共建築物維持保全計画に基づき、計画的に実施していく。